

OWANI

2023→2032

第6次大鰐町振興計画



町長あいさつ



本町では、平成 25 年度から令和 4 年度までの 10 年間、第 5 次大鰐町振興計画に基づき、全ての町民が「安全・安心」に「健やか」で「心豊か」な暮らしができるよう、その実現に向けて各種施策を推進してまいりました。

近年では、全国的な人口減少・少子高齢化の進行に加え、新型コロナウイルス感染症に対する新しい生活様式への変化、原油・エネルギー価格その他物価の高騰など、これまで経験したことのない時代への転換期を迎える中、本町が大きく飛躍していくためには、今後の 10 年間は重要な期間になると考えております。

また、厳しい社会経済情勢の中にあっても、本町の魅力を最大限に生かしつつ、大鰐町らしいまちづくりを目指していく必要があります。

このような状況の中、未来に希望を持つことができるまちづくりを町民の皆さまとともに推進し、本町が将来にわたって持続的な成長を維持していくために、令和 5 年度からの町政運営の指針として、新たに第 6 次大鰐町振興計画を策定いたしました。

本計画では、「わになって みんなポカポカ 大鰐町」をまちの将来像に掲げ、その実現を図るために 5 つの横断取組と、5 つの基本方針を定めております。町の未来のため、一人ひとりが繋がり大きな輪になることで、町民の皆さまに「温かい」と感じていただけるよう、そして「住みたい、住み続けたい」と思ってもらえるようなまちづくりを進めてまいります。

最後に、本計画の策定に当たりまして、貴重な御意見をいただきました町民の皆さまをはじめ、御審議していただいた振興計画審議会委員や町議会議員の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和 5 年 3 月

大鰐町長 山田年伸

目 次

第 1 編 序論

第 1 章 第 6 次振興計画策定について	3
1-1 計画策定の目的と役割	3
1-2 計画の構成と期間	3
1-3 計画の推進	4
1-4 土地利用の方針	4
第 2 章 社会背景と町の状況	5
第 3 章 前計画の検証	8
3-1 取組状況	8
3-2 各分野における問題点と展望	9
第 4 章 住民の声	11
4-1 一般アンケート	11
4-2 中学生アンケート	13
4-3 今後 10 年間で優先的に取り組むべき分野	15
4-4 住民ワークショップ	16
4-5 農家座談会	19
第 5 章 まちづくりの視点	20
5-1 課題の整理	20
5-2 まちづくりの方向性	24

第2編 基本構想・基本計画

第1章 基本構想と計画の体系	27
1-1 基本理念と将来像	27
1-2 基本方針	29
1-3 計画の体系	32
第2章 横断取組	34
2-1 横断取組の概要	34
2-2 横断取組の詳細	34
横断1 定住促進「住み続けたい」まちづくり	34
横断2 まちの磨き上げ「大鰐らしい」まちなみ形成	35
横断3 誰も置き去りにしない「デジタル化」の推進	35
横断4 自然資源の多面的な活用	36
横断5 地域共生社会形成の推進	37
第3章 基本計画	38
基本方針1 助け合いで健やかな笑顔を育む《保健・医療・福祉分野》 ...	38
1-1 子育て支援体制の充実計画	38
1-2 住民みんなの生涯健康づくり計画	40
1-3 高齢者福祉の充実と社会参加促進計画	41
1-4 誰もが幸せに生活できる障がい者福祉の充実計画	42
基本方針2 豊かな心と学びの人を育む《教育・文化分野》	43
2-1 幼児教育・学校教育の充実計画	43
2-2 生涯学習・スポーツの振興計画	45
2-3 芸術・文化振興と多彩な交流活動の展開計画	46
基本方針3 チームワークで活力ある生業を育む《産業分野》	47
3-1 チームワークによる農林業振興計画	47
3-2 地場産業育成と商工業の振興計画	49
3-3 観光・レクリエーションの振興計画	51

基本方針 4 安全で住みやすいまちを育む《まちの基盤分野》	53
4-1 防災・備災の強化計画	53
4-2 資源循環型まちづくりの推進計画.....	54
4-3 人と車にやさしい交通の確保計画.....	55
4-4 住・生活環境の充実計画	56
基本方針 5 持続可能なまちづくり体制を築く《まちの運営分野》	58
5-1 協働によるまちづくり計画	58
5-2 財政健全化と持続可能な行財政の運営計画	60

資料編

資料 1 社会背景の変化	62
(1) 予測困難な時代	62
(2) 世界共通の目標	62
(3) 我が国の方針	63
資料 2 大鰐町の概況	65
(1) 人口の動向.....	65
(2) 産業の動向.....	67
(3) 財政状況.....	72
(4) 近隣市町村との関わり	74
資料 3 前計画の検証	75
(1) 取組状況.....	75
(2) 各分野における問題点とこの計画への展望	76
資料 4 一般アンケート	79
(1) 実施概要.....	79
(2) 回答結果.....	79
資料 5 中学生アンケート	85
(1) 実施概要.....	85
(2) 回答結果.....	85
資料 6 住民ワークショップ	98

第 1 編

序論

第 1 章 第 6 次大鰐町振興計画について

1-1 計画策定の目的と役割

- 振興計画は全ての計画や事業を貫く「まちづくりの指針」
- 「目指すまちの姿」を明確にすることで、協力してまちづくりに取り組みやすくする

大鰐町（以下、「本町」という。）では 10 年ごとに振興計画を策定することで時代に応じた「目指すまちの姿」を明確にし、各種施策を推進しています。

2013（平成 25）年に策定した第 5 次大鰐町振興計画（以下、「前計画」という。）の計画期間が 2022（令和 4）年度で終了するのに伴い、これからの時代において「本町がどのような町として在り続けたいのか」、今後 10 年の基本的な方向性を明確にするため、第 6 次大鰐町振興計画（以下、「この計画」という。）を策定しました。

1-2 計画の構成と期間

- 振興計画は基本構想と基本計画で構成
- 計画期間は 2023（令和 5）年度から 2032（令和 14）年度までの 10 年間

※基本計画は社会情勢の変化など、必要に応じて見直しを行います。基本計画の方針に沿って、主な事業や具体的な内容、予算を策定するのが各種実施計画です。

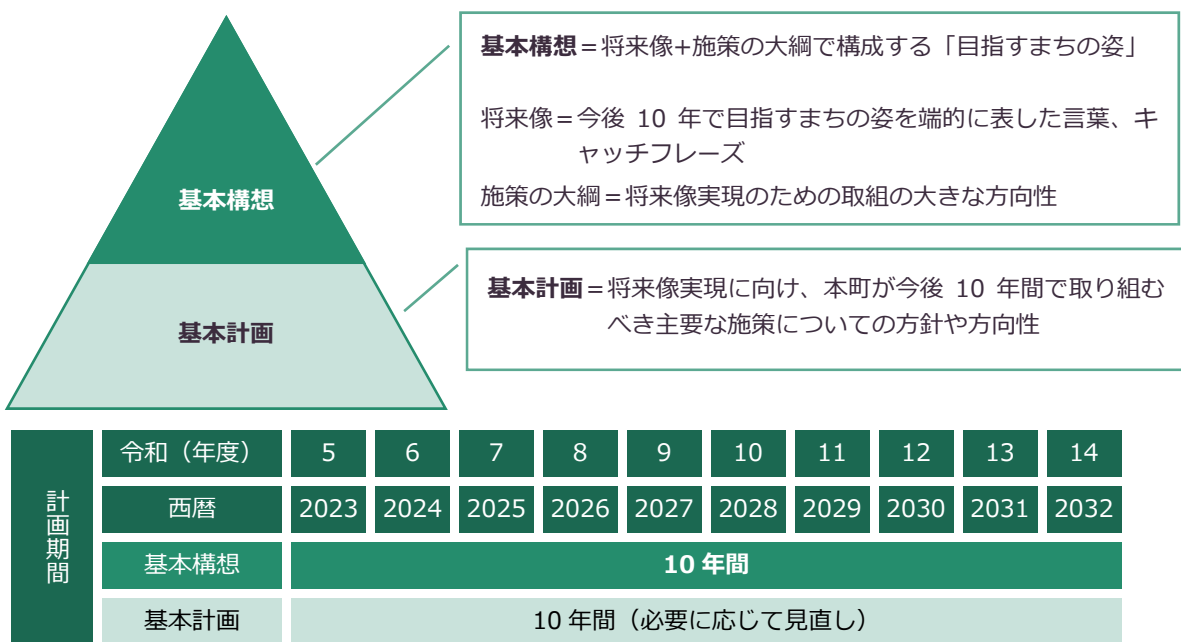


図 計画の構成と期間

1-3 計画の推進

毎年度、庁内において計画に掲げる取組の実施状況に関する事務事業調査・分析を行い、実績に関する評価を行ったうえで、必要に応じて翌年度の各事業の実施内容等を見直すこととします。

1-4 土地利用の方針

(1) 上位関連計画との関係

土地利用については、広域圏の総合計画である青森県基本計画及び都市計画の上位計画である弘前広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和 3 年）に整合するものとします。

(2) 土地利用の方針

本町の土地利用について、詳細は大鰐町都市計画マスタープラン（平成 27 年改訂版）に示しています。「市街地・農地の輪郭の形成」「コンパクトな土地利用の推進」「都市機能の再配置・集約配置の方針」の 3 つを基本方針として、豊かな自然と共生し、多様な交流のあるまちの形成を目指します。

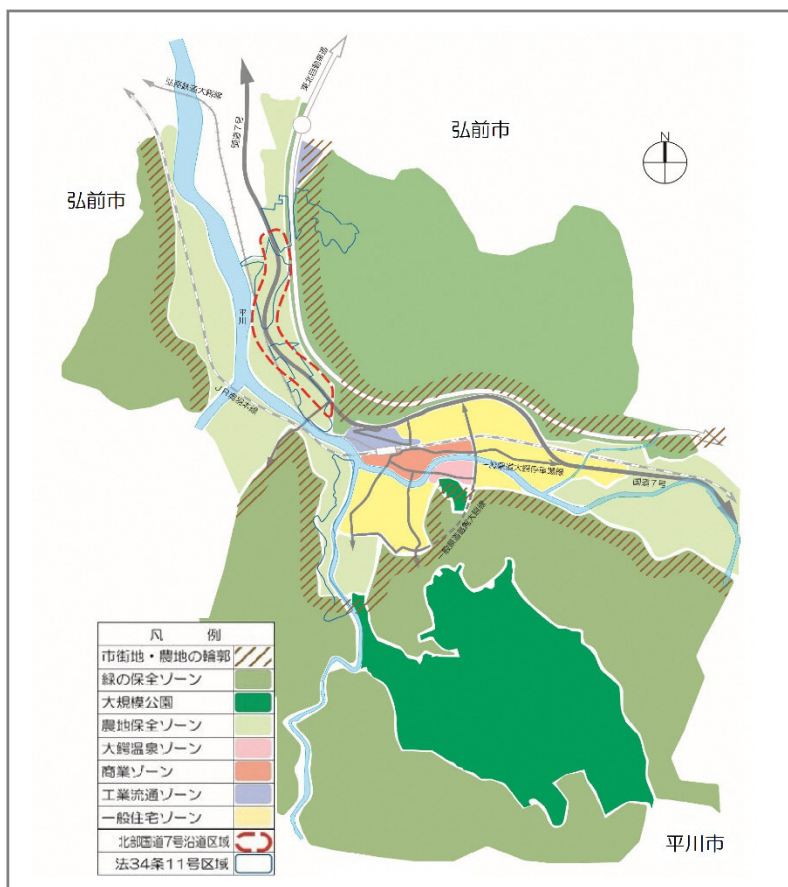


図 将来土地利用イメージ

出典：大鰐町都市計画マスタープラン概要版（改訂版）

第2章 社会背景と町の状況

👉 社会背景

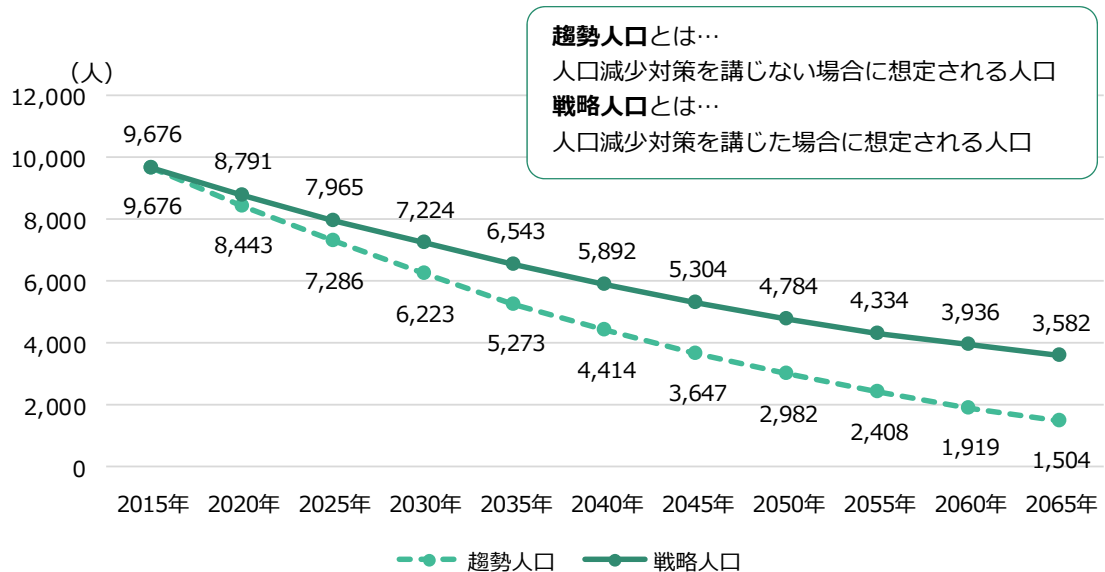
予測困難な時代	● 気候変動 ● デジタル化・国際化の進展	
世界共通の目標	● 脱炭素社会の実現(2050年) ● SDG s の達成(2030年)	
国の政策	● 人材育成 ● デジタル化の推進 ● グリーンインフラ※の活用	

課題

少子高齢化・人口減少
の抑制と対応

※グリーンインフラ=自然が有する機能を社会資本整備やまちづくりに活用する取組。P7の解説参照。

👉 大鰐町の人口や産業の状況



〔資料：大鰐町人口ビジョン改訂版〕

図 趨勢人口と戦略人口

大鰐町ゆるキャラ
もやっぴー



人口

総人口は減り続けていて、世帯の少人数化が進んでるよ
令和3年の高齢化率は43%、年配の方が多いね
10年後も総人口7,000人以上をキープしたいな！

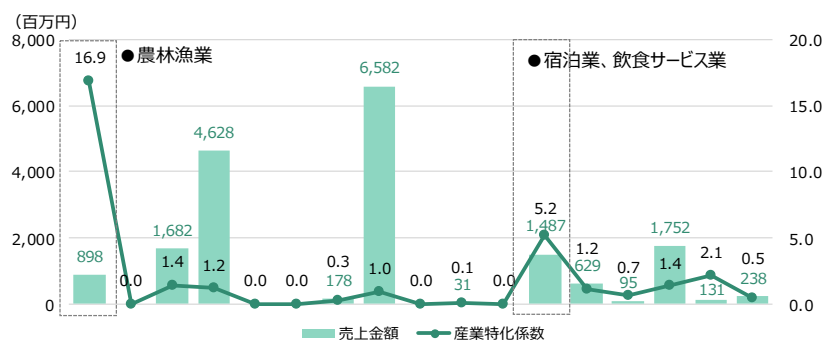


図 産業別売上金額と産業特化係数

特色ある産業は

「農林漁業」と
「宿泊業、飲食サービス業」

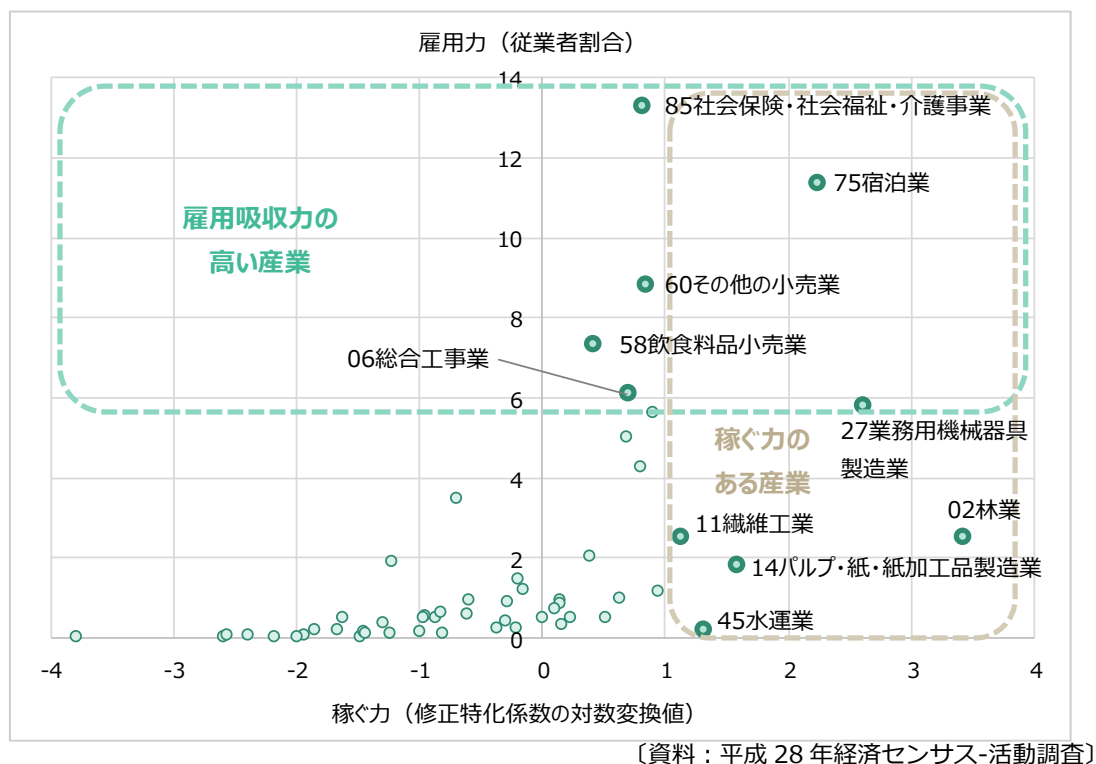


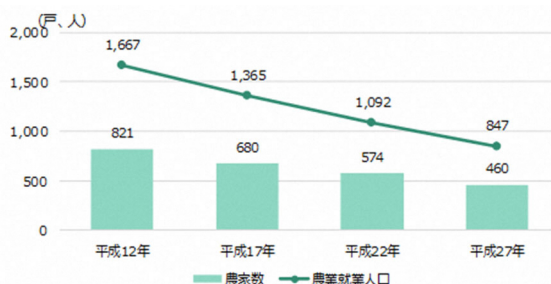
図 産業・雇用創造チャート

宿泊業

雇用力と稼ぐ力を兼ね備えているけど
最近、観光客が減っているよ

農業

大鰐温泉もやしは好調だけど
農家数、農業就業は年々減っているみたい
なんとかしたいね



〔資料：農林業センサス〕

図 農家数と農業就業人口の推移（販売農家）

詳しく知りたい人は資料編 P61～を見てね！

解説

SDG s は地球にやさしい開発を続けるための目標

SDG s = Sustainable Development Goals



図 SDG s の概念を表す構造モデル

資料：ストックホルムレジリエンスセンター「SDG s ウェディングケーキモデル」より作成

SDGs（持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指す、国際社会の共通目標です。

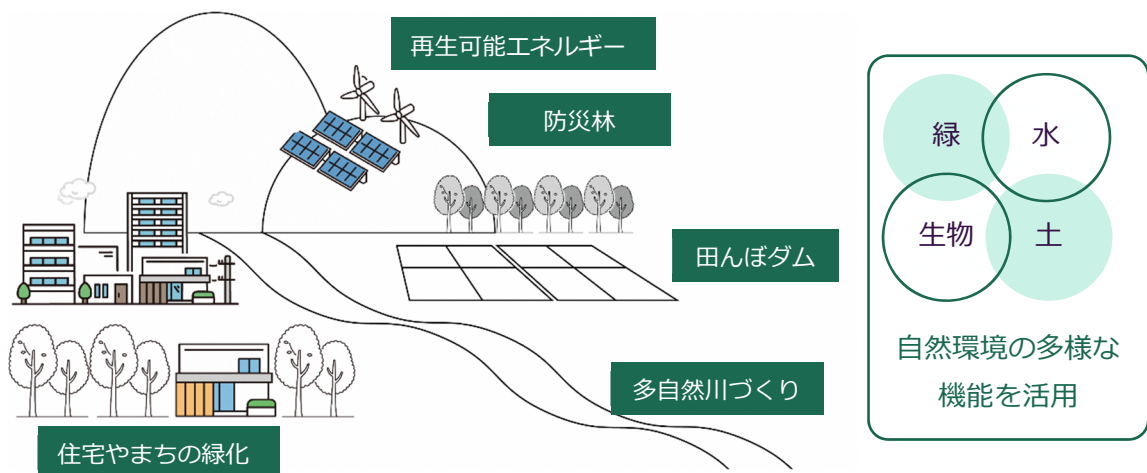
全部で 17 の目標があり、経済圏・社会圏・生物圏の 3 つの階層に分けて考えることができます。左の図は、「経済」の発展が生活や教育などの社会条件によって成り立ち、「社会」は最下層の「生物圏」、人々が生活するために必要な自然の環境によって支えられていることを表しています。このため、自然環境への取組が重要なのです。

解説

グリーンインフラは自然の機能をまちづくりに活用する取組

グリーンインフラとは、「グリーン」＝「自然環境」が有する多様な機能を活用し、「インフラ」＝「社会資本」整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組です。防災・減災、自然環境の保全、地域振興等の多様な地域課題の同時解決を図ることができる取組として注目されています。

例えばバイオマス発電は、森林を保全・活用して再生可能エネルギーを生み出すグリーンインフラの 1 つです。田んぼは、稲が酸素をつくり食糧を生産する機能に加え、その湛水性を活用することでさらに多様な機能を持つ「グリーンインフラ」と捉えることができます。

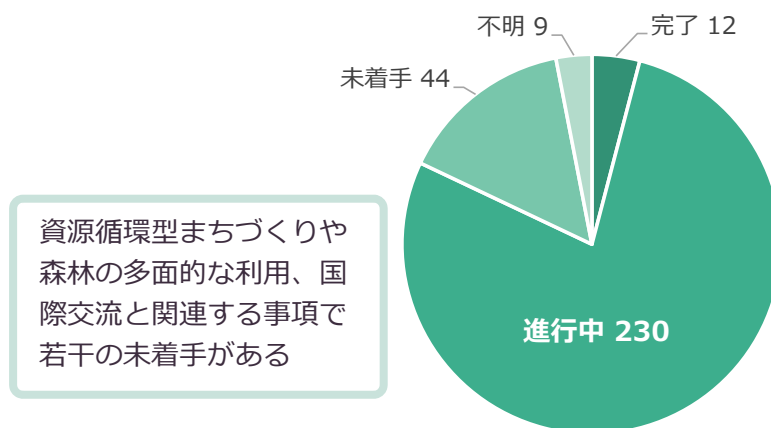


第3章 前計画の検証

3-1 取組状況

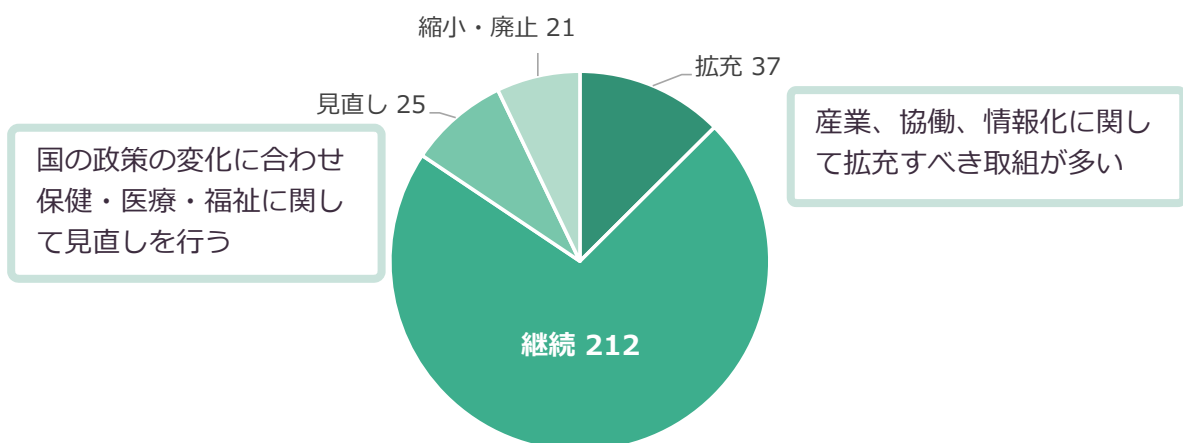
(1) 取組状況

- 前計画における取組 295 件のうち全体の約 8 割が進行中である。



(2) 次の10年における取組の方向性

- 前計画における取組のうち全体の約 7 割を次の10年においても継続する。



3-2 各分野における問題点と展望

まちー自然、施設や住環境

住生活環境

住環境を保全するため、空き家の有効活用が必要。また、除排雪の担い手の確保及び除排雪体制の維持が課題である。

交通

国や県など、道路の管理主体に関わらず、通学路の安全を確保したい。

防災

高齢化や若手担い手の減少により、団員の確保と昼間の消防力の維持が課題となっている。

ひと

福祉

高齢者世帯の支援や地域で見守る体制の構築が必要である。多世代において「共助」の必要性を認識し活動に参加してほしい。

教育

教育機関と家庭や地域の連携が重要。生涯学習を充実し、既存施設の活用等によりスポーツ施設のニーズに応えたい。

自然環境

「木育教室」等、林業と教育・観光の共同事業を推進したい。

医療・保健

平均寿命・健康寿命を延伸したい。国策と連動し弘前圏域の中核病院を軸とした医療体制を構築していく必要がある。

子育て支援

家族構成の変化に伴い、子育ての不安や負担を抱える親が増加している。保健、医療、福祉、教育が連携した切れ目のない支援が必要である。

林業

地球温暖化防止及び防災の視点から山林の維持管理が重要である。国策と連動して林道整備や林業振興に力を入れたい。

しごと

農業

町の基幹産業であるが、担い手の減少が問題。高収益化に取り組み、チームワークで稼げる農業にしたい。

商工業

まちの景観形成と中心市街地の魅力づくりを合わせて進めたい。新たな町の特色につながる産業が求められる。

観光業

宿泊者数がまちの賑わいにつながっていない。広域観光と連携し、まちの賑わいにつながる観光としたい。

まちづくり体制

協働

まちづくり団体が少ないため、新しい団体や人づくりの部分の強化が必要である。

行財政

国の ICT 推進政策と連動が求められる。庁内の情報インフラ整備による事務処理の合理化や効率化を進める。

情報化

観光や防災の視点から公衆無線 Wi-Fi の整備が必要。国の ICT 推進政策と連動し町も情報化を推進する。

第4章 住民の声

この計画を策定するに当たり、住民の意見を計画に反映するためのアンケート調査と住民ワークショップを行いました。

4-1 一般アンケート

(1) 実施概要

● 対象者	町内在住の満16歳以上の方1,000名（無作為抽出）
● 実施方法	郵送による配布・回収
● 実施時期	2021（令和3）年12月
● 回収数（回収率）	373票（37.3%）

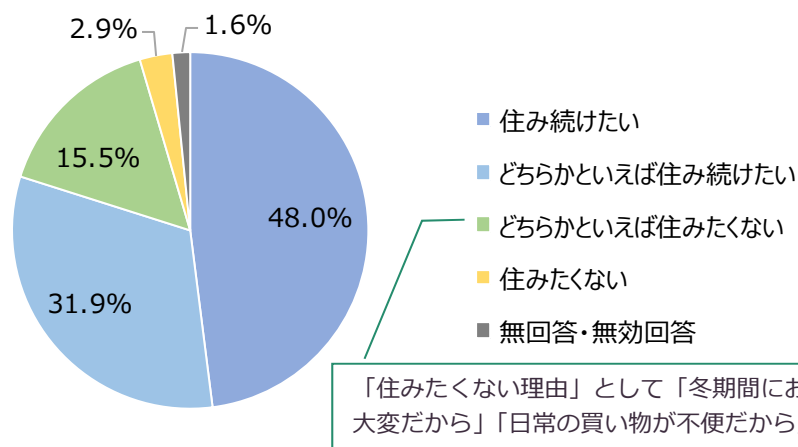
設問

問1	性別／年齢／居住歴／居住地区／職業／通勤・通学先
問2	町への居住意向
問3	居住意向が低い理由
問4	現行の施策についてこれまでの満足度／今後の重要度
問5	地域づくり活動の参加状況・参加意向
問6	今後10年間で町が優先して取り組むべき分野

(2) 注目点

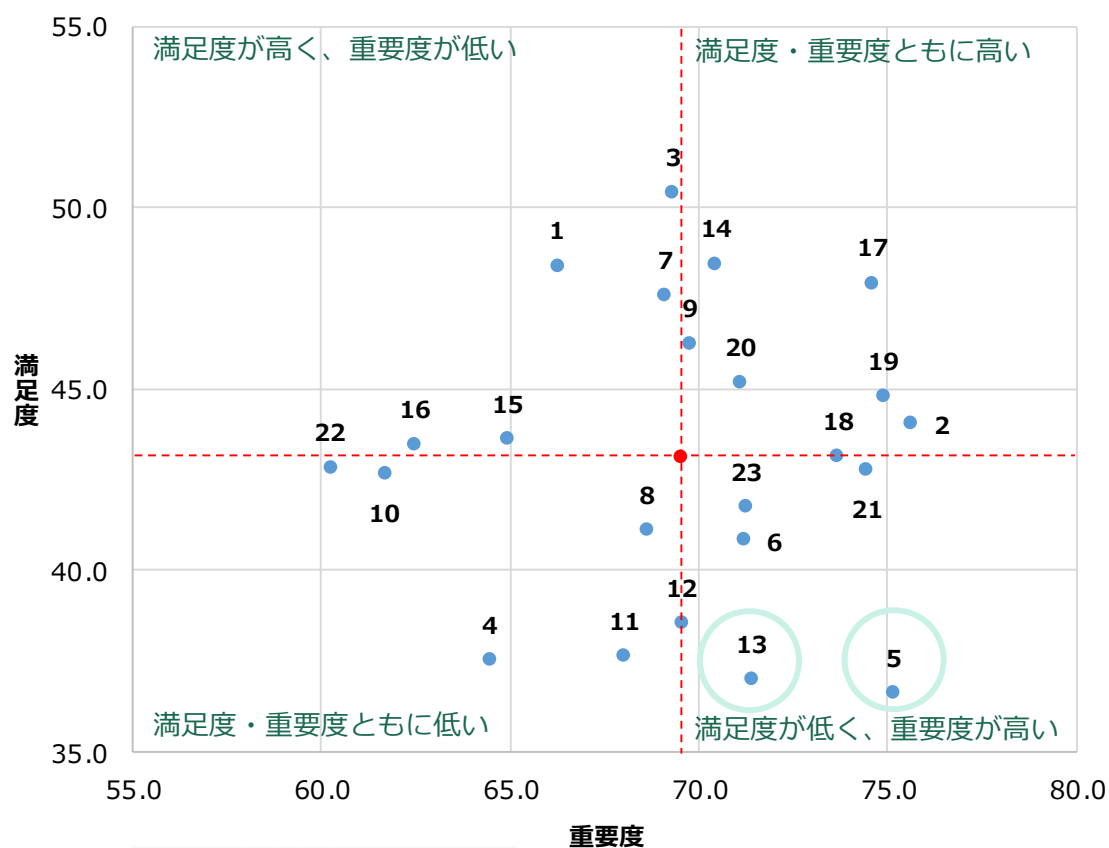
① 居住意向

居住意向は前回より上昇し、「住み続けたい」が約8割と高くなりました。



②前計画の各施策の満足度×重要度からのニーズ

満足度が低く、重要度が高い、すなわち特にニーズが高いと考えられる施策は、5「まちの骨格づくり」と13「観光の振興」です。



満足度が高く・重要度が低い

1. 自然と人々が共生する自然環境の保全
3. 地域のを地域で創り出す、資源循環型まちづくり
7. 快適で安心して暮らせる住生活環境の整備
15. 住民誰もが自由に学び・遊べる生涯学習・スポーツの振興
16. 芸術・文化振興と多彩な交流活動の展開

4. 豊かな自然と共生し、交流の生まれる計画的な土地利用
8. いつでも・どこでも・誰とでもつながる、情報化への対応
10. 多面的な森の活用も含めた林業の振興
11. 住民にも来訪者にも楽しい商業の振興
12. 地場産業の育成など工業の振興
22. 住民参加の協働によるまちづくり

満足度・重要度ともに低い

満足度・重要度ともに高い

2. みんなの助け合いで災害時にも安全に暮らせる防災体制の強化
9. 大鰐ブランドの形成と付加価値の高い農業の振興
14. 一人ひとりの学力や個性を育む幼児教育・学校教育の充実
17. 住民が主体的に取り組む、住民みんなの生涯健康づくり
19. 子育てを地域で支える仕組みづくり

5. 大鰐の魅力を住民も訪れる人も楽しめるまちの骨格づくり
6. 町内も町外へも交通の利便性が高い、体系的な交通網の整備
13. 地域の光を観せる交流型産業としての観光の振興
18. 自助・共助・公助による地域福祉の推進
21. 誰もが幸せに生活できる障がい者福祉の充実
23. 財政健全化と合理的・効果的な行財政の運営

満足度が低く、重要度が高い

4-2 中学生アンケート

(1) 実施概要

● 対象者	大鰐中学校に通う生徒全員（139 名）
● 実施時期	2021（令和 3）年 12 月
● 回収数（回収率）	134 票

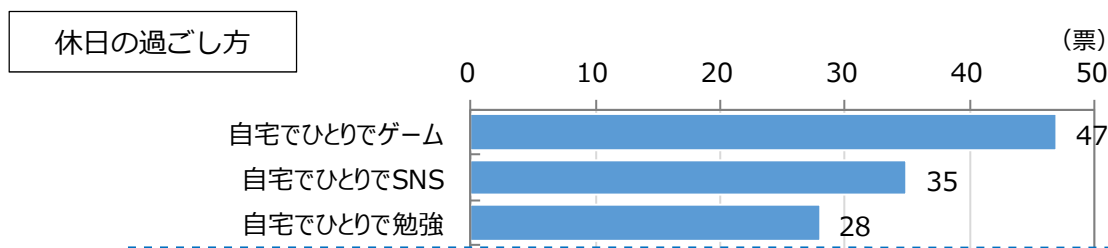
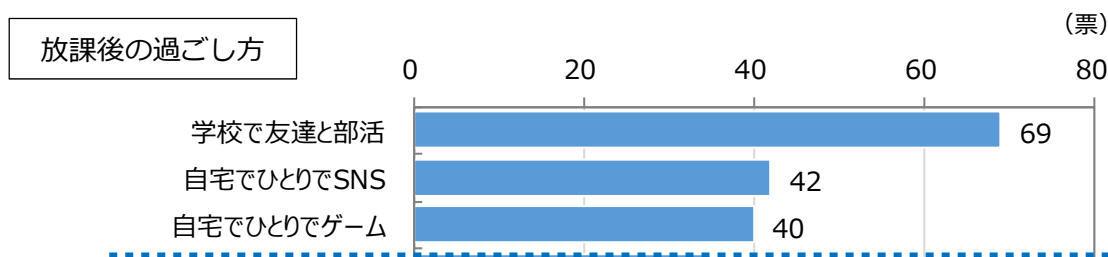
設問

問 1	性別／学年
問 2	放課後や休日の過ごし方
問 3	大鰐町にあったらいいなと思うこと
問 4	大鰐町の印象
問 5	居注意向
問 6	今後 10 年間で町が取り組むべきこと
問 7	住みやすい町にするために自分にできること

(2) 注目点

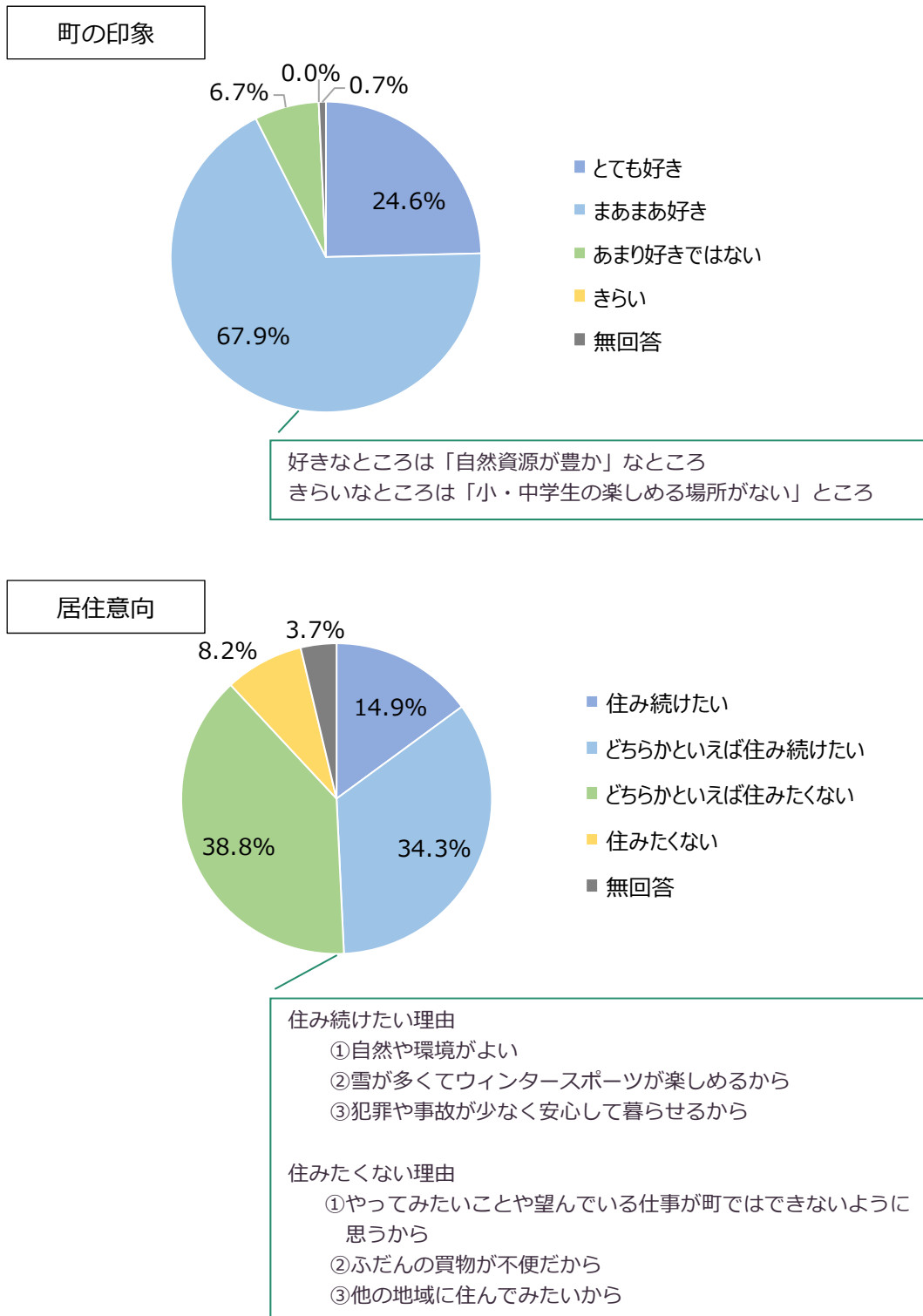
①余暇の過ごし方と町にあったらいいなと思うこと

余暇の過ごし方で最も多いのは、放課後は「学校で友達と部活」、休日は「自宅でひとりでゲーム」でした。あったらいいなと思う場所は図書館、体育館、ゲームセンターなど「友達と遊べる・集まれる」場所との回答が多く見受けられました。



②町の印象と居住意向

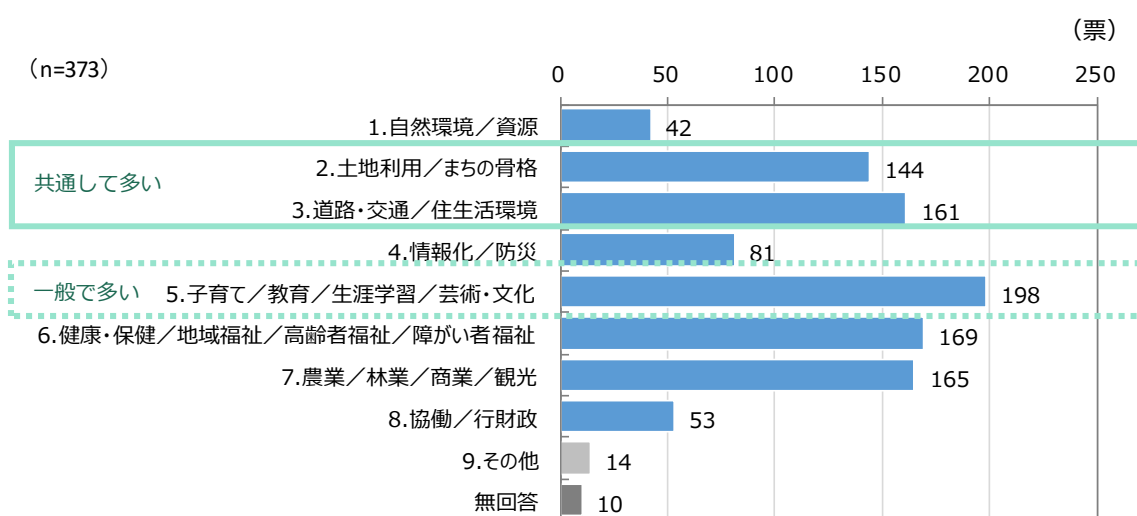
町の印象では9割以上が「好き」と回答しました。将来の居住意向で「住み続けたい」との回答は5割程度となっています。



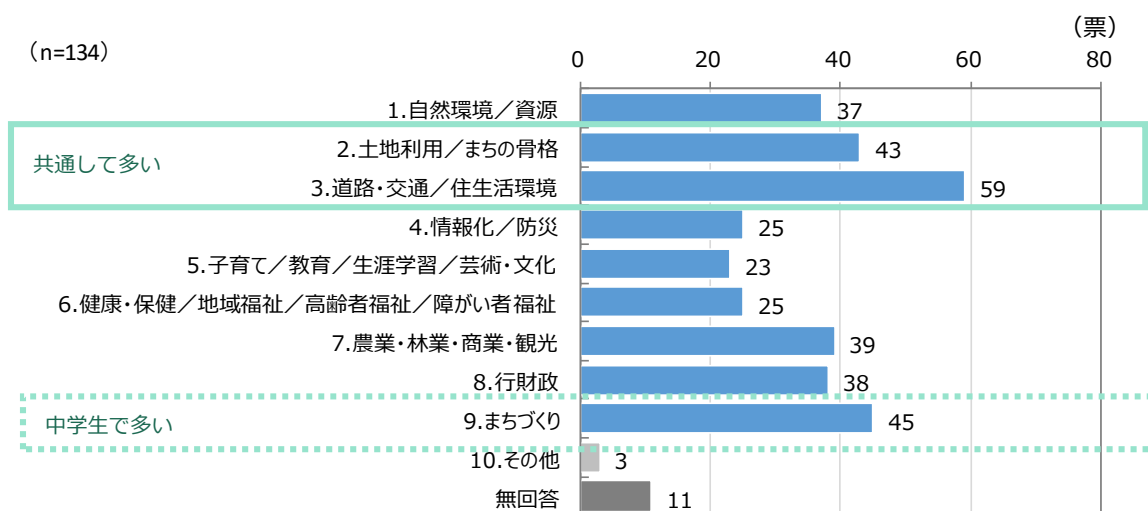
4-3 今後 10 年間で優先的に取り組むべき分野

今後 10 年間で優先的に取り組むべきと考えられる分野について、ひとり 3 つまで選択してもらいました。

一般と中学生に共通して票数が多いのは「道路・交通／住生活環境」「土地利用／まちの骨格」分野でした。一般で多いのは「子育て／教育／生涯学習／芸術・文化」分野であり、中学生では「まちづくり」分野でした。



【一般】



【中学生】

4-4 住民ワークショップ

(1) 実施概要

第 1 回	住みたいのは、どんなまち？
● 目的	町の現状を自分目線でふりかえり、もっと住みよい場所にしていくためのアイデアや地域の目指す将来像を共有する。
● 参加者	町内に居住または通勤している方 31 名

■プログラム

町の魅力や課題を共有し、「住みたいまち」の姿を言葉で表す。	
①現状の共有	まちの「いいところ」、「惜しいところ」を話し合う。
②将来の姿の共有	「どんなまちにしていきたいか」、そのために伸ばしていきたいこと、変えていきたいことを話し合う。
③キャッチフレーズ化	「住みたいまち」を端的にキャッチフレーズとして表し、何を大切にしたいのか気づく。

■意見のまとめ

まちの「いいところ」

- スキーと温泉がある
- 人情がある
- 自然がたくさんある
- 大鰐温泉もやしなど名物がある
- 夜景がきれい
- 鉄道の駅がある

まちの「惜しいところ」

- スキー場の利用客が少ない
- まちなかの活気が少ない
- PR 不足
- 子供が少なく、遊び場や小児科の病院がない
- 車がないと不便



伸ばしていきたいこと

- 食・温泉・スキーの連携と PR
- 温泉を農業や産業に利活用
- 駅前のにぎわいづくり
- 文化を伝える
- 若者にとって住みやすい町
- 町民が話し合えるイベント

もっと
「住みたいまち」に
するためには？

第2回	実現のために、何をする？
● 目的	第1回ワークショップで出された「住みたいのは、どんなまち？」のアイデアに基づき、実現のために自分たちには何ができるのかを考え、主体的な取組へつなげる。
● 参加者	町内に居住または通勤している方 31 名

■プログラム

参加者自らがプランの実行者であると仮定し、日常を豊かにするためのアクションプランやアイデアについて話し合う。	
① アイデアだし	6つのテーマごとに、町でもっと豊かに暮らすためにどんな魅力的なアイデアがあるか、各班で話し合う。
② 方法と課題	アイデアを整理し、プランを定め、実現の方法や課題を項目出しする。
③ 行動の流れ	どのような順番で行動するか、流れを整理する。

■アイデアまとめ

テーマ	アクションプランのアイデア
子育て情報共有	大鰐と縁の深い「漬物」づくりを通して子供たちの食育を行う。企画を通じて食文化の継承と多世代の交流を促し、ひいては子育てに関する情報交換等も行うことができる状態を目指す。
まちについて語り合う場	いつでも、どこでも、だれとでも、ざっくばらんに「町」や「まちづくり」について情報交換し対話できる場をつくる。
りんご	特色のあるイベントを通じて大鰐りんごを発信する。
ねぶた	町民一人ひとりが自分のねぶたをつくること等を通じて祭りを盛り上げると同時に文化の継承を図る。
温泉	効能や数など町内の温泉の実態を調査し、観光協会等と協力体制を築き、スタンプラリー等の企画を通じて町の魅力の充実を図る。
空き店舗	空き店舗を利用して、町内に人が集まる場所を作る。

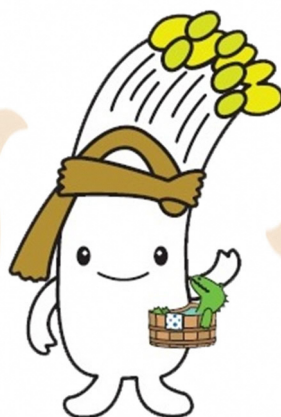
どんな具体的なアクションがあると
まちの暮らしをもっと楽しめそう？

(2) 住民の思い・意見

スキー場・温泉・食・自然景
観・人が町の特長だ！と考
える人が多かったよ

交通や生活利便性を改善し、
町の特長をもっと活かし、
良さを知ってもらいたい

町へ足を運んでもらい
暮らす場として選ばれたら
うれしい



そのためには、

- 町の特長一つ一つを組み合
わせて活用すること
 - 近隣市町村との連携
 - PRの工夫
 - 町民の話し合い（まちづく
りへの参加）などが必要で
はないか
- といった意見を共有したよ

(3) 計画への反映

まちづくりは、ますます住民の積極的な参加が求められています。ワークショップ参加者の意見や「住みたいまちにする」ためのアイデアを施策の検討時に考慮しました。

また、基本構想における将来像は「住みたいのは、どんなまち？」を表したキャッチフレーズをもとに審議しました。さらに、最も要望が多かった「まちづくりについて語り合う場」を設定することを施策に位置付けました。

4-5 農家座談会

全国的にも中山間地域の農業を巡る問題は山積し、担い手の確保を含む持続可能な農業を促進することが共通の目標となっています。農業は、観光と並ぶ本町の基幹産業であることから、より詳細な現場の声をふまえて施策を検討するため座談会を開催しました。座談会には他業種からの転職者を含む 5 名の農家に参加してもらいました。各農家ともに、町にも農業にも愛着を持つ一方、営農継続には不安を感じているようです。

悩ましいこと

土地のこと

- 土地の購入を検討したいが、売買情報の入手が手間である。
- 耕作放棄地の作農を依頼されることもあるが手が回らない。

労働力のこと

- 労働力の確保がいちばん不安である。現在、家族経営で対応している。
- 家族のだれかが欠けると現在の営農を維持していくことが困難である。

生産性・高収益化のこと

- 大鰯産のりんごは、生育に労力がかかる分味がよく日持ちもするが、差別化やブランド化は難しい状況にある。
- 基本的には農業を続けていきたいが、労働時間や収益のバランスなど難しい。

改善のためには？

- 農地に関する情報を迅速かつ正確に収集・発信できる仕組みが必要である。
- SNS の活用等が労働力確保だけでなく、耕作放棄地の解消にもつながるのではないか。

- 期間雇用や兼業・副業の推進などで繁忙期の労働力を確保できるとよい。
- 後継者育成を視野に入れ、子供の頃から農業に親しむ環境づくりに取り組むことが必要ではないか。

- 省力化・大規模化した生産物との差別化を工夫するか、農地の集約等で省力化を図ることが必要。
- 労働量・労働時間・収益など仕事としてのバランスが向上し、農業がビジネスとして成り立つことが示せるとよい。

参加してくれた 5 名のうちりんごのみの営農は 1 名、他は米や野菜・果物等の複合営農、林業や木工と兼業だったよ

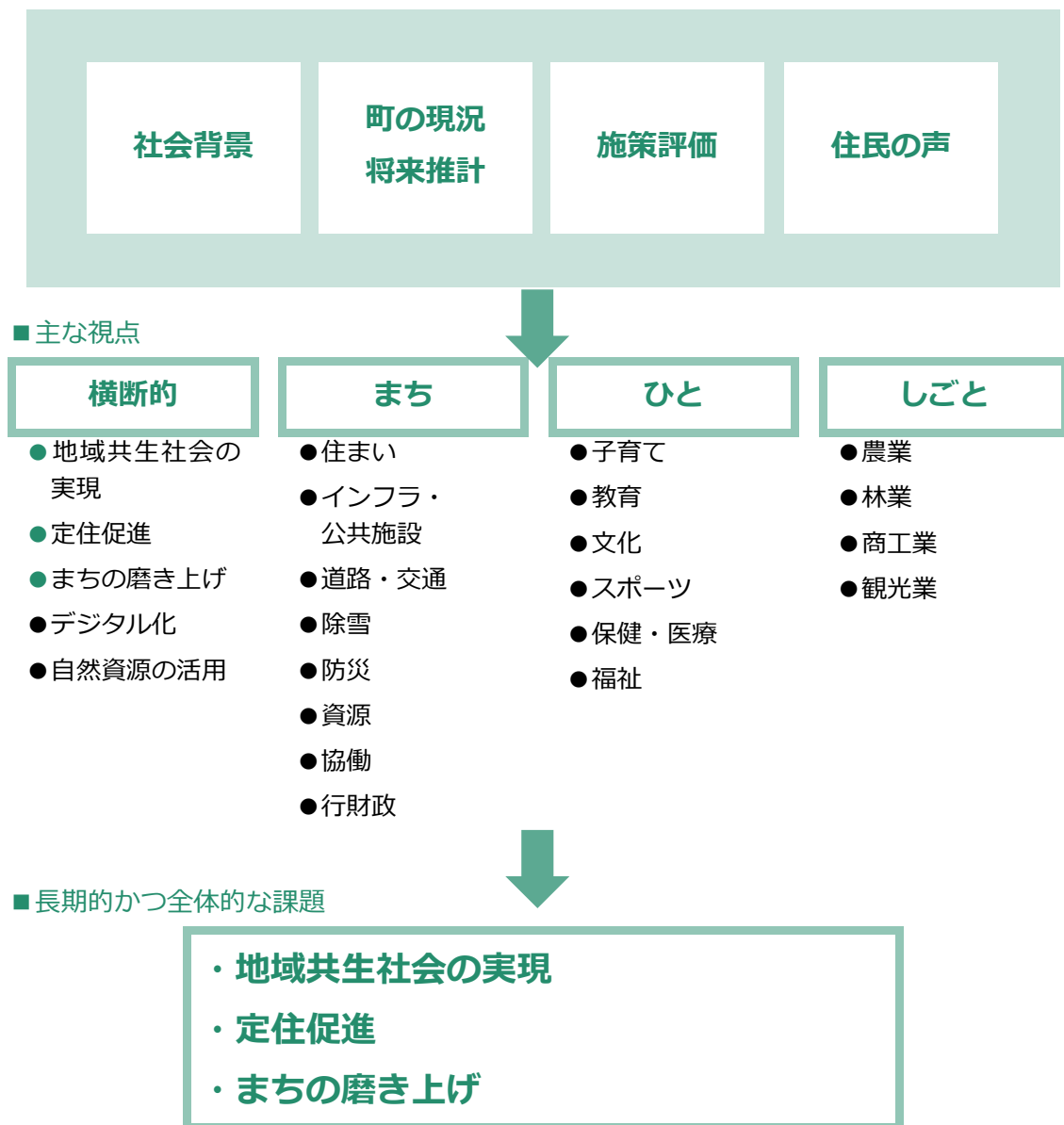


定期的にお手伝いを頼むことができる農家もいたけれど、基本的には家族で営農しているんだって忙しい時期は重なるから大変だね！

第5章 まちづくりの視点

5-1 課題の整理

社会背景や町の現況、行政における施策評価や住民の声から、総合的に課題（＝問題解決の方向性）を整理しました。この計画においても少子高齢化・人口減少への対応が重要課題であることから、「まち・ひと・しごと創生第2期大鰐町総合戦略」に沿い、「まち」「ひと」「しごと」の視点をふまえ、横断的に連携して取り組む必要があることから将来を見据えた長期的な課題を3つにまとめました。



横断的に連携して取り組むべき視点と課題

● 地域共生社会の実現

- ・ **地域で支え合う体制の構築**
(生活支援ニーズのある全ての人への対応等、福祉の取組を含む)

● 定住促進

- ・ 誰もが住んでよかったと思えるまちづくりの推進
- ・ 町内への移住を促進する取組の推進

● まちの磨き上げ

- ・ 住民と協働で進める「大鰐らしい」特色の発揮と住みやすさを両立するまちなみの形成 (施設の配置と利活用、生活利便性を向上させる取組、観光振興)

● デジタル化

- ・ 時代に即した分野での情報化推進 (産業、教育、交通、医療、福祉、行政等)
- ・ あらゆる世代を対象としたデジタル活用の支援

● 自然資源の活用

- ・ 自然資源の利活用 (防災、木育等林業と教育、広域連携の観光、協働による保全、資源等)
- ・ 鳥獣害対策の推進

まち (まちの基盤やまちづくり) に関する視点と課題

● 住まい

- ・ 空き家対策推進 (空き家バンク登録等)

● インフラ・公共施設

- ・ 安定した水資源の確保と供給
- ・ 庁舎建設、遊休施設の活用

町を好きな気持ちが
「住み続けられる」に
つながるといいね！

● 道路・交通

- ・ 通勤・通学地への交通利便性の向上
- ・ **通学路の安全確保**

● 除雪

- ・ **除雪対策の強化**、安定したオペレーターの確保
-

●防災

- ・防災情報システムの整備・充実
- ・災害レベルに合わせた施設や避難場所の見直し、地域ごとの訓練実施等

●資源

- ・再生可能エネルギーへの取組検討

●協働

- ・まちづくり活動への参加意識の醸成、地域活動の企画・実践への支援

●行財政

- ・庁内の情報インフラ整備による事務処理の合理化や効率化
- ・サービス充実や負担軽減につながる広域連携の推進

ひとに関する視点と課題

●子育て

- ・婚活、結婚、**子育てにおける支援の充実**
- ・ニーズに応じた財政支援や人的支援の検討

●教育

- ・**子供の個性を伸ばす教育の充実**
- ・子供たちが安心できる居場所（学習、運動、コミュニケーション等）の検討
- ・子供から高齢者まで誰もが学べる仕組み、学習支援の充実、多様性への理解促進

●文化

- ・わがまち大鰐の良さの再認識につながる文化の発信

●スポーツ

- ・年間を通じたあじゃら山の活用とスポーツの振興
- ・スポーツ施設の充実検討

●保健・医療

- ・平均寿命・健康寿命の延伸に繋がる取組の推進
- ・**弘前圏域の中核病院との連携強化による医療体制の構築**

●福祉

- ・**要配慮者への支援等、緊急時の防災・防犯体制の強化**

しごとに関する視点と課題

● 農業

- ・ 高齢となった生産者への支援や新規就農者の獲得・育成等の充実
- ・ 農業所得の向上（基盤整備、農産品ブランド化、複合経営化の促進）

● 林業

- ・ 林道整備の推進
- ・ 持続的な山林の維持管理

● 商工業

- ・ 商工会や事業者、住民等多様な関係者と連携した中心市街地の一体的な改善
- ・ 地域資源を生かした産業の育成

● 観光業

- ・ 中心市街地の魅力づくりと大鰐らしい景観軸の形成
- ・ 時代に即した観光コンテンツの推進

まちなみ形成、賑わいの醸成を
求める声が多かった

観光する場と生活する場が重なって
いるから、まちの魅力向上が
住民にとっても訪れる人にとっても
プラスになりそう



5-2 まちづくりの方向性

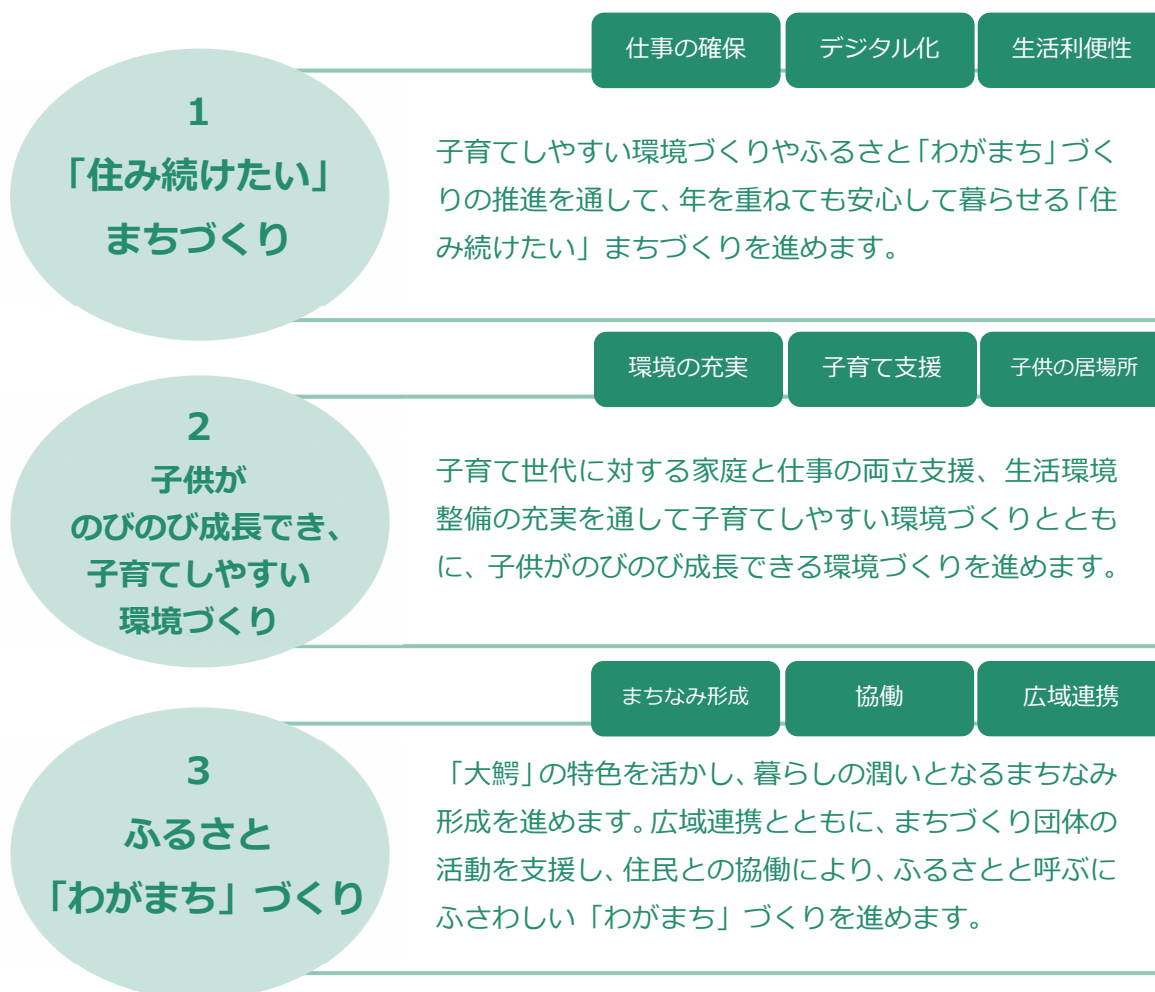
長期的かつ全体的な 3 つの課題、「地域共生社会の実現」「定住促進」「まちの磨き上げ」を推進するため、この計画では次の 3 つを主要なまちづくりの方向性とすることにしました。各分野の施策は、この方向性をふまえて策定しています。

■長期的かつ全体的な課題

- ・ 地域共生社会の実現
- ・ 定住促進
- ・ まちの磨き上げ



■まちづくりの方向性



第2編

基本構想

基本計画

第 1 章 基本構想と計画の体系

1-1 基本理念と将来像

今後 10 年間で目指す「まちの姿」を協議し、重点的に取り組むべき課題は「地域共生社会の実現」「定住促進」「まちの磨き上げ」であるとししました。

今後 10 年間に於いて、全ての町民が「安全・安心」に「健やか」で「心豊か」な暮らしができるまちを目指すこととし、この計画の基本理念として「地域共生社会の実現」を位置付けました。

基本理念をふまえ、今後 10 年間で目指すまちの姿・将来像は「わになって みんなポカポカ 大鰐町」とし、将来像実現に向け大別した分野の基本方針を次のように設定します。

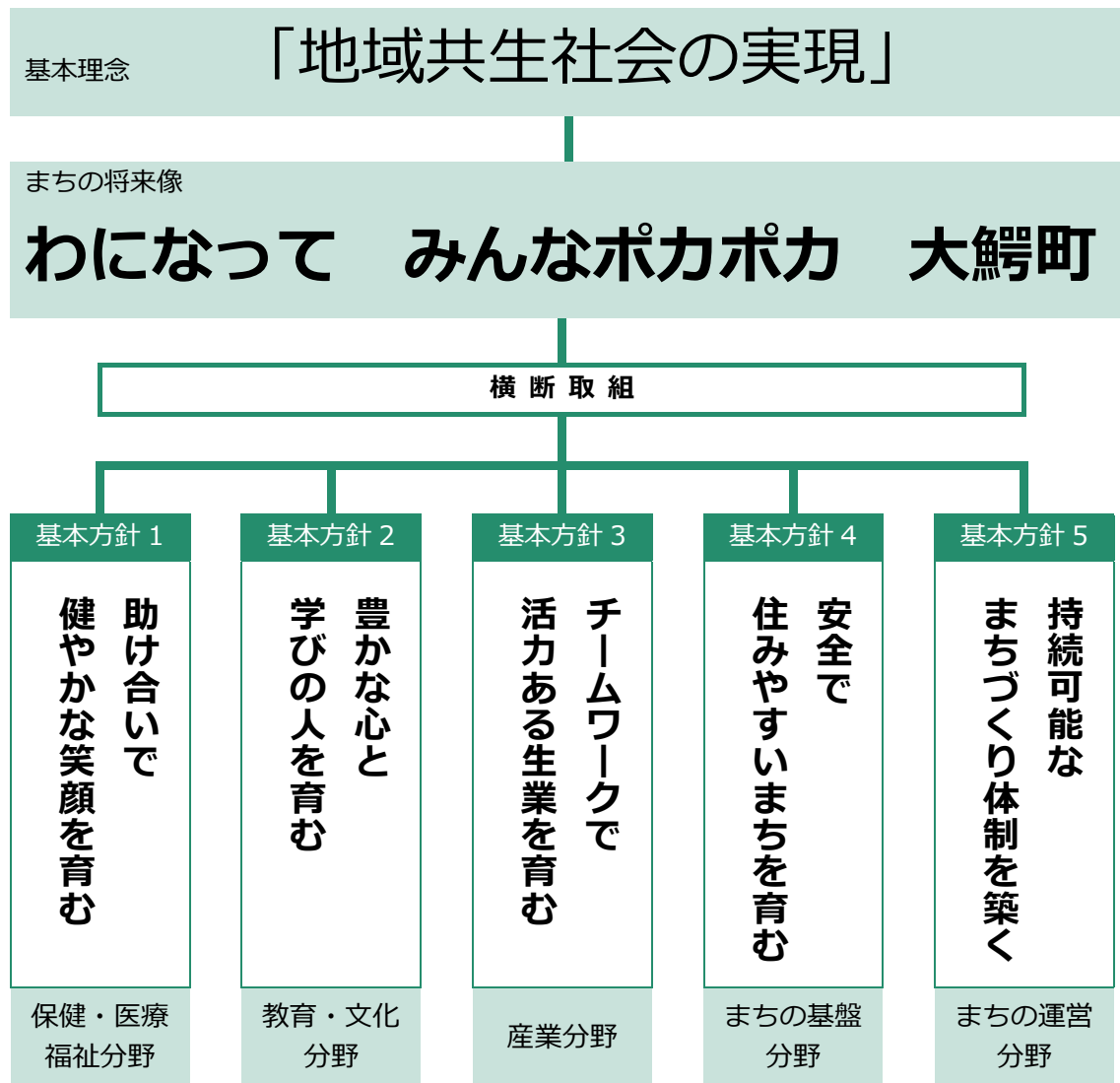


図 基本構想図（将来像と基本方針）

将来像は、住民ワークショップで提案された「みんながポカポカ大鰐町 みんなが連携し、潤い、温まる町」をもとに協議を重ね決定しました。それぞれの言葉には次の意味を含めました。地域共生社会の実現した状態を端的に表した言葉です。

わになって

“わ”になる。「輪」「和」の意味を含みつつ、「鰐」の音にもかけた。町の未来のために、一人ひとりが繋がって輪になろう、という想いを表している。

みんな

誰ひとり置き去りにしないという SDG s の思想と、他人まかせではなく官民ともにという協働の思想を表している。

ポカポカ

ポカポカは「潤う」や「温まる」を象徴する。町の資源である温泉やスキー等スポーツの熱、農業等経済活動が潤沢に循環すること、人の心などを表している。



1-2 基本方針

大別した分野ごとの基本方針は、将来像「わになって みんなポカポカ 大鰐町」を実現するために必要な取組の柱です。基本方針の実現が、将来像の実現につながるため、基本方針に沿って施策・取組を推進していくことになります。「みんなポカポカ」するような「地域共生社会の実現」に向かい、各分野・部門でどのような状態を目指していくのか明らかにします。

なお、これらの取組は行政だけでなく、町民や団体、企業など大鰐町に暮らす様々な主体が協力して実現を目指すものであることから、主語を「わたしたち」としています。

基本方針 1 助け合いで健やかな笑顔を育む

【分野】保健・医療・福祉

近年は感染症流行の影響もあり、予防を中心に保健・医療・福祉を一体的に進めることが求められています。わたしたちは、次のような取組を通じ、町民が生涯にわたって「健やかに」暮らせるまちの実現を目指します。

- 切れ目のない子育て支援に注力しながら、寿命とともに健康寿命の延伸を目指す
- 適切な医療を受けられるようにし、健康な身体を保つ
- なんらかの病気や障がいがある状態になったとしても、安心して社会生活を送ることができるようにする

基本方針 2 豊かな心と学びの人を育む

【分野】教育・文化

次世代を担う子供たちの教育はまちの未来をつくることともいえます。わたしたちは、次のような取組を通じ、町民一人ひとりが生涯にわたり心豊かに暮らせるまちの実現を目指します。

- 一人ひとりを大切にするきめ細かな教育を推進する
- 子供も大人も生き生きと学び、スポーツに親しむ環境を整備する
- 文化の保存や交流を促進する取組により、町への愛着の醸成につなげる

基本方針 3 チームワークで活力ある生業を育む

【分野】産業

本町の基幹産業は農林業と観光業ですが、少子高齢化や近年の感染症流行の影響などにより減衰の傾向が見られ、家族で担ってきた農業も後継者不足が深刻化しています。わたしたちは、次のような取組を通じ、活力ある生業のまちの実現を目指します。

- 作業の省力化や効率化、高収益化を実現する「稼げる農業」の確立を目指す
- 国をあげたデジタル化の推進を追い風として、労働力確保の支援など農業を持続可能にする取組を推進する
- グリーンインフラ活用の政策にのっとり、まちの様々な産業が連携する

基本方針 4 安全で住みやすいまちを育む

【分野】まちの基盤

従来のまちの基盤の維持に加え、近年の大規模自然災害の頻発などにより地域防災力の向上が求められています。わたしたちは、次のような取組を通じ、安全で住みやすいまちの実現を目指します。

- 町民の身体や生命・財産を守るため、防災対策や減災対策に取り組む
- 町民との協働のもと、地域の実情に応じた地域防災力や防災機能向上を図る
- 犯罪や交通事故が発生しにくい環境づくりを進める
- 道路や上下水道など生活基盤の維持・向上に努める

基本方針 5 持続可能なまちづくり体制を築く

【分野】 まちの運営

町の様々な計画を実行するためには、時代の変化へ柔軟に対応できる町政運営の仕組みを構築し、持続可能な運営体制を築く必要があります。担い手不足、ニーズの多様化の両面から、地域運営を行政のみで行うには限界があり、わたしたちは、次のような取組を通じ、持続可能かつ効果的なまちづくり体制の構築を目指します。

- 個人や地域団体、企業など様々な主体との協働を試みる

1-3 計画の体系

将来像の実現に向けた、各基本方針とその基本計画・施策は次のとおりです。

基本構想			基本計画	
将来像	横断取組	基本方針	部門	計画
わ に な っ て み ん な ポ カ ポ カ 大 鰐 町	1. 定住促進「住み続けたい」まちづくり	1. 助け合いで 健やかな 笑顔を育む 保健・医療 福祉分野	子育て支援	子育て支援体制の充実
			保健・医療	住民みんなの生涯健康づくり
			高齢者福祉	高齢者福祉の充実と社会参加促進
			障がい者福祉	誰もが幸せに生活できる 障がい者（児）福祉の充実
		2. まちの磨き上げ「大鰐らしい」まちなみ形成	2. 豊かな心と 学びの人を 育む 教育・文化分野	学校教育
	生涯学習・スポーツ			生涯学習・スポーツの振興
	芸術・文化			芸術・文化振興と多彩な交流活動の展開
	3. 誰も置き去りにしない「デジタル化」の推進	3. チームワーク で活力ある 生業を育む 産業分野	農林業	チームワークによる農林業振興
			商工業	地場産業育成と商工業の振興
			観光業	観光・レクリエーションの振興
	4. 自然資源の多面的な活用	4. 安全で 住みやすい まちを育む まちの基盤分野	防災	防災・備災の強化
			環境保全	資源循環型まちづくりの推進
			道路・交通	人と車にやさしい交通の確保
			建設・住環境	住・生活環境の充実
	5. 地域共生社会形成の推進	5. 持続可能な まちづくり 体制を築く まちの運営分野	住民参加	協働によるまちづくり
			行財政運営	財政健全化と持続可能な行財政の運営

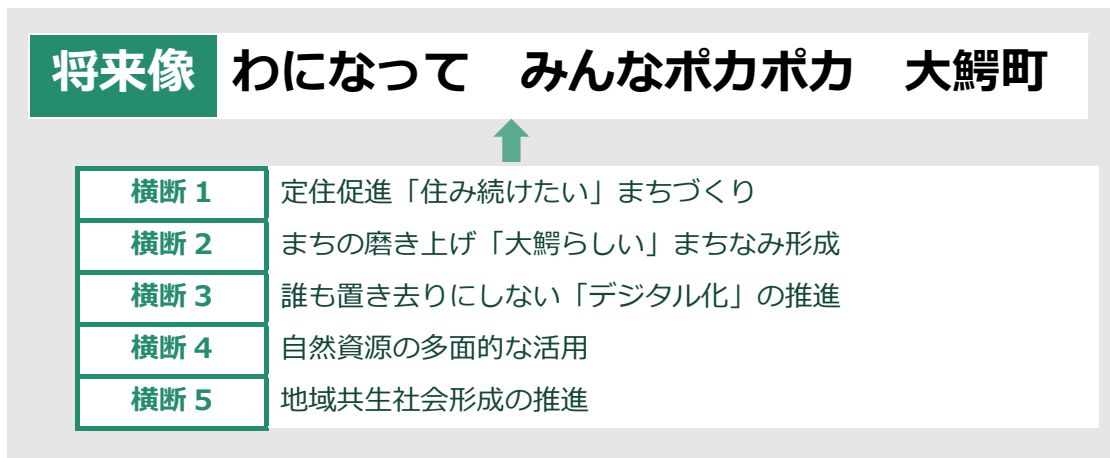
施策	
妊産婦・乳幼児等への切れ目のない支援の充実 特別な支援を要する家庭の自立支援	多様で柔軟な子育てサービスの充実等
地域医療体制の充実 生涯健康づくりの推進	
予防対策の強化 高齢者福祉・介護支援体制の充実	社会参加・生きがい活動への支援
障がい者（児）福祉サービスの充実	
家庭と連携した幼児教育の充実 学習環境の充実	生きる力を育む学校教育の充実
誰もが参加しやすい生涯学習の推進 健康とふれあいのための生涯スポーツの振興	
芸術・文化の振興 多彩な交流の推進	
農業生産基盤の整備 農業を支える担い手の育成 高付加価値型農業の展開	林業基盤環境の充実と関連産業の振興 林業の担い手の育成
商業の振興 工業の振興支援	地域の資源を活かした地域型産業の振興 企業誘致の推進
観光資源の魅力向上 受け入れ体制としてのホスピタリティ向上	観光行動に対応した広域連携の推進
災害に強いまちづくりの推進 消防・救急体制の充実	
自然環境の保全 3R運動の展開による快適な環境づくり	
公共交通機関の利便性向上 安全な道路の確保	
公共施設・設備の持続可能な管理・活用 安定した上水道環境の確保	住宅環境の充実 生活の安全性の向上
多様な住民活動の育成・支援 住民自治の促進	情報共有の促進
合理的・機能的な行政運営 財源の確保と適正で効果的な財政運営	

第2章 横断取組

2-1 横断取組の概要

地域共生社会の実現を基本理念として、各分野単位ではなく、分野横断的に全庁が連携し、かつ地域や住民と行政が協働で推進すべき事項を横断取組として位置付けました。

5つの横断取組は、将来像「わになって みんなポカポカ 大鰐町」の実現に向け、この10年間で優先して取り組むべき目標でもあります。



2-2 横断取組の詳細

横断
1

定住促進「住み続けたい」まちづくり

主な関連分野：商工業、子育て支援、教育

(1) 現況

- 人口減少対策として社会減（転出）の抑制が重要である。
- 「住み続けたい」と思えるまちとしていくことが求められる。

(2) 取組の方針

住み続けたいまちを目指し、第2期大鰐町総合戦略で提案する「まち・ひと・しごと」創生の取組を推進します。子供から大人まで、住民が地元への理解を深め、愛着を持ち続けることができるような取組や、住民アンケートで要望が多かった「子育て支援」を中心に、暮らしやすさ・働きやすさの向上を図ります。



(3) 具体の取組等

- リモートワークやワーケーション等、多様な働き方に対応した環境整備と移住促進
- 出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実
- 定住促進を目的とする情報発信の強化
- 講座や職場体験など地元産業に対する理解促進・担い手の育成
- 地域おこし協力隊制度を活用した地域活性化

横断 2

まちの磨き上げ「大鰐らしい」まちなみ形成

主な関連分野：建設、住環境、観光・商工業

(1) 現況

- 中学生・住民アンケートともに「まちなみ形成」への要望が多く、観光目的に限らない、住民が住んでいてよかったと感じられる「まちなみ」の形成が求められている。
- まちあるき観光を促進するためにも大鰐らしい景観の形成が求められている。

(2) 取組の方針

観光に値する「温泉街」としての特色が目に見え、分かりやすくなるような景観の向上と環境美化に努めます。同時に、住民の生活満足度の向上に資することを根本目的として、歩きたくなるような「にぎわい」醸成や観光資源の魅力向上を推進します。



(3) 具体の取組等

- 大鰐温泉駅を中心としたまちなかの景観形成（魅力向上）
- 空き家・空き地・空き店舗の活用促進
- 遊休施設の活用検討
- まちなみや環境に配慮した庁舎の建設

横断 3

誰も置き去りにしない「デジタル化」の推進

主な関連分野：情報化、行財政、交通、防災、住環境

(1) 現況

- 生活のあらゆる面で、効率的・効果的な ICT の活用が求められている。

- デジタル化の過渡期において利用者側の適応速度に差があり、アナログ・デジタルの柔軟な使い分けや併用が求められるほか、人的な支援が必要と考えられる。

(2) 取組の方針

行政が率先して業務のデジタル化に取り組み、事務処理の効率化や行政サービスの質の向上に努めます。地域公共交通や防災等、住民の生活利便性や安全性に直結する分野において優先的にデジタル化を推進します。「誰も置き去りにしない」デジタル化に向け、利用者の取りこぼしがないよう配慮します。



(3) 具体の取組等

- ICT 推進と連動した地域のデジタル化の推進
- 庁内の情報インフラ整備の推進による事務処理の合理化、効率化の推進
- 住民が利用する情報ネットワークの利便性向上
- 災害時の情報システム（収集・伝達）の整備・充実
- 地域公共交通のデジタル化（予約システムなど）検討
- 公衆無線 Wi-Fi の整備検討
- 高度情報化に対応した人づくり

横断 4

自然資源の多面的な活用

主な関連分野：住環境、農林業、教育

(1) 現況

- グリーンインフラ成長戦略等、国の政策と合わせ自然資源の活用やエネルギー施策が求められる。
- 恵まれた森林資源の活用が求められている。

(2) 取組の方針

環境問題やグリーンインフラへの理解を深めるため、学校教育や生涯学習を通じ住民の意識啓発に努めます。地域再生可能エネルギーを地域づくりに生かすことはできないか検討するとともに、グリーンツーリズム等現存する森林資源の利活用を促進します。



(3) 具体の取組等

- 地産地消事業の実施等、太陽光発電の利用促進
- バイオマスや小水力発電等地域再生可能エネルギー利用の検討
- 森林の利活用を目的としたグリーンツーリズムの展開促進

- グリーンツーリズム等環境学習・自然体験の場として森林の利活用促進
- 各種広報活動を通じた、大鰐の自然に関する PR 活動の充実

横断 5

地域共生社会形成の推進

主な関連分野：地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、生涯学習、防災

(1) 現況

- 行政サービスのみで住民ニーズの全てをカバーすることは困難であり、ニーズを最もよく把握している住民が主体となって、行政と協働でまちづくりに取り組むことが求められている。
- 血縁的・地縁的ネットワークが減少しつつあり、かつ一人暮らし世帯の増加が見込まれる中、意識的な助け合いのネットワークづくりが不可欠である。

(2) 取組の方針

「自立」とは「頼る先を多く持つことである」の視点にたち、生涯幸せに暮らすことができる地域共生社会の実現に向けた取組を推進します。自助・共助・公助が相互に適切に作用するよう、行政サービスの充実と合わせ、住民の意識啓発や参加を促進します。

(3) 具体の取組等



- 住民一人ひとりの福祉の心を育てる取組の推進
- ボランティアスクールの継続開催
- 地域での見守り等共助の取組の推進
- 認知症対策や権利擁護事業の充実
- 独居及び高齢者世帯への支援
- バリアフリーのまちづくりの推進
- 生活の安全確保と人権擁護の推進
- 生涯学習プログラムにおける介護・福祉に関する学びの推進
- 要援護者の支援計画に基づく避難訓練の実施
- 緊急時の防災・防犯体制の強化

第3章 基本計画

基本方針 1

助け合いで 健やかな 笑顔を育む

<保健・医療・福祉分野>

1-1 子育て支援体制の充実計画

(1) 現況

- 少子化が進む中、家庭を持つことへの希望が持てるよう若い世代への支援が望まれる。
- ひとり親家庭からの相談は生活困窮に関する件が増えている。
- 国はこども家庭庁を創設し、こどもの well-being を高め、こどもの健やかな成長を社会全体で後押しする「こどもまんなか社会」実現を推進している。

VOICE

制度的支援として

- 保育料・給食費の無償化
- 予防接種の無償化
- 児童手当の充実等があるといいな

子育てする側への支援として

- 情報交換できる場
- 時間で子供を預けられる仕組みがあるといいな

(2) 計画の方針

若い世代が結婚・出産・子育てに希望を持ち、次世代を担う子供たちが健やかに成長できるよう、安心して子供を産み育てることができる町を目指します。子育て支援の二ーズを見直し、経済的・人的支援等切れ目のない支援の充実を図ります。

(3) 子育て支援体制の充実計画 | 施策と主な取組

施策① 妊産婦・乳幼児等への切れ目のない支援の充実

- 取組
- 妊産婦の健康管理等、妊娠・出産に関する不安や負担の軽減
 - 子育て家庭への経済的負担の軽減
 - 乳幼児の健康診査や歯科指導等の実施

施策② 特別な支援を要する家庭の自立支援

取組 ● 子供の発達程度に合わせた子育て支援

施策③ 多様で柔軟な子育てサービスの充実等

取組 ● 保育サービス等多様な子供の育成支援

1-2 住民みんなの生涯健康づくり計画

(1) 現況

- 本町は県内で比較的平均寿命が短く、平均寿命・健康寿命の延伸が求められる。
- 人口減少が著しく、この先 50 年を見据え町全体で医療体制を構築する必要がある。
- 国は、人口減少を背景に、健康先進国として持続可能な医療体制の構築を推進している。

(2) 計画の方針

子供から大人まで生涯を通じ心も体も健やかに生活できる町を目指し、幼少期からの食育等意識的な健康づくりを推進します。また、広域連携の中で高齢化が進む町の医療ニーズに対応可能な医療体制を構築するとともに、身近な医療充実のための人材確保を図ります。

(3) 住民みんなの生涯健康づくり計画 | 施策と主な取組

施策① 地域医療体制の充実

- 取組
- 県の指針に基づく地域医療の機能充実
 - 医師の確保や医療機器の更新による医療の安心確保
 - 病床機能の最適化
 - 町内医療機関との連携等広域での医療体制の強化
 - 訪問看護ステーション等在宅医療の拡充検討

施策② 生涯健康づくりの推進

- 取組
- 健康増進計画に基づくライフステージに即した予防、早期発見、早期治療の推進
 - 心の健康づくりや食育への取組強化

1-3 高齢者福祉の充実と社会参加促進計画

(1) 現況

- 高齢化率が40%を超え、今後も高齢者世帯の増加が見込まれる中、地域の支え合いや生活支援の仕組みづくりが重要となる。
- 人生100年時代を見据え、高齢者が社会で役割を持って活躍できるよう、多様な就労や社会参加ができる環境整備を進めることが求められている。

(2) 計画の方針

年を重ねても健やかに生き生きと住み続けられる町を目指し、介護予防の取組を推進します。また、町の特性に応じた地域包括ケア体制の充実を図るとともに、高齢者が社会的役割を持つことにより、生きがいや介護予防につながるよう、高齢期の尊厳ある生活を支援します。

(3) 高齢者福祉の充実と社会参加促進計画 | 施策と主な取組

施策① 予防対策の強化

- 取組 ●介護予防の推進

施策② 高齢者福祉・介護支援体制の充実

- 取組 ●持続可能な介護保険事業の運営
●地域包括ケア体制の充実

施策③ 社会参加・生きがい活動への支援

- 取組 ●生涯学習や成人大学の充実と参加促進
●高齢者の就労促進
●老人クラブ等の活動支援
●地域福祉活動やボランティア活動への参加促進

1-4 誰もが幸せに生活できる障がい者福祉の充実計画

(1) 現況

- 障がい者のニーズに応じて、適切なサービスを提供する体制が必要である。
- 国は、地域共生社会の実現に向け、差別の解消や社会参加、生活安定等施策を推進している。

(2) 計画の方針

障がい者が住み慣れた地域の中で安心して自立した生活を送ることができるよう、ニーズに応じた福祉サービスを受けることができる環境づくりを推進します。また、障がいの早期発見に努めるとともに、障がいのある子供がのびのびと育ち、障がい者とその家族が生きがいを持って暮らせるよう社会参加等の支援体制の充実を図ります。

(3) 誰もが幸せに生活できる障がい者福祉の充実 | 施策と主な取組

施策① 障がい者福祉サービスの充実

- 取組
- 障がい者のニーズに合わせた福祉サービスの充実
 - 障がい者の健康の維持・増進のための助成
 - 精神障がい者の生活自立に向けた訓練等の支援

※受け入れ体制の充実に係る内容は横断取組 5「地域共生社会形成の推進」に記載

2-1 幼児教育・学校教育の充実計画

(1) 現況

- 子供の数が減少しているが、幼児期から中学校まで連携した教育を提供しやすい環境にある。
- 子供の生活環境として多様な受け皿が求められる。
- 目指すべき新しい時代の学校教育の姿として ICT を活用しながらの「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が提言された。

VOICE

中学生には
「図書館」
「学習スペース」など
学校や家庭以外の居場所の
要望があったよ

中学生には
「遊ぶ」「くつろぐ」「集まる」
など行為の要望があったよ
集まって楽しいことしたいし
集まるだけで楽しかったりするよね

(2) 計画の方針

予測困難といわれる時代だからこそ、子供たちの「生きる力」を育む教育を目指します。幼児教育においては遊びや生活の中で生きる力の基礎を培い、幼保と小学校の連携を促進し、少人数だからこそできる「一人を大切にする」教育を実践します。

(3) 幼児教育・学校教育の充実計画 | 施策と主な取組

施策① 家庭と連携した幼児教育の充実

- 取組
- 子育てのための就学前支援の充実
 - 小学校と幼保の連携促進

施策② 学習環境の充実

- 取組
- 学校施設の整備充実と有効利用の促進
 - 適切な施設の管理運営
 - 教職員の研修体制や指導・相談体制の充実
 - 地産地消など学校給食の充実

施策③ 生きる力を育む学校教育の充実

- 取組
- 新しい学習指導要領に準じた教育内容の充実
 - 時代の変化に対応した情報教育の充実
 - ALT の派遣等、国際理解教育の充実
 - 学校教育における自然学習の充実
 - 地域とのつながりを深める総合学習の充実
 - 食育の推進

2-2 生涯学習・スポーツの振興計画

(1) 現況

- ライフステージ・ライフスタイル・時代の変化に対応した学びの重要性が高まっている。
- 成人、中学生ともに体育施設等や運動場利用に対するニーズがある。
- 国は、生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」の最大化に向け、社会人の学び直しの推進など、人生 100 年時代を見据えた生涯学習を推進している。

(2) 計画の方針

生涯を通じて住民が生き生きと学びスポーツを楽しめる町を目指し、生涯学習とスポーツの振興を図ります。生涯学習の推進体制を確立・充実させるとともに、住民一人ひとりがスポーツに親しむことができる環境整備に取り組みます。

(3) 生涯学習・スポーツの振興計画 | 施策と主な取組

施策① 誰もが参加しやすい生涯学習の推進

- 取組
- 生涯学習の推進体制の確立
 - ライフステージに沿った社会教育活動の充実

施策② 健康とふれあいのための生涯スポーツの振興

- 取組
- 生涯スポーツ活動の展開
 - 競技スポーツの振興

2-3 芸術・文化振興と多彩な交流活動の展開計画

(1) 現況

- 俳句やスキー等文化資源の活用が望まれている。
- 人口減少等により民俗芸能・行事等は継承困難になる可能性がある。
- 国は文化財をはじめとする文化資源を活用した付加価値の創出を推進している。

VOICE

大鰐文化を掘り起こす
博物館等があるといいな

空き店舗等を利用し、
住民の文化活動に利用でき
るようにしてはどうか

例えば、つけものグランプリ
といった、
食文化を学ぶことを通して
多世代交流を促すような
企画を試みることはできない
かな

(2) 計画の方針

文化財の保存とともに、子供の頃から芸術・文化に触れ親しむ機会を設けることを促進し、文化資源を活用した交流に努めます。

(3) 芸術文化振興と多彩な交流活動の展開計画

施策① 芸術・文化の振興

- 取組
- 阿弥陀如来坐像、湯魂石薬師堂、はぎかつらなど文化財の保護・保存
 - 獅子舞、登山囃子、お山参詣などの民俗芸能・行事の継承支援
 - 学校教育や生涯学習プログラムにおける文化伝承事業の推進
 - 「住民が我が町を知る」勉強会の開催

施策② 多彩な交流の推進

- 取組
- 俳句、スキー等文化資源の活用による国内交流活動の推進
 - 国際的な交流活動の推進

基本方針 3 チームワークで活力ある生業を育む

＜産業分野＞

3-1 チームワークによる農林業振興計画

(1) 現況

- 農業者の高齢化が進み、後継者や新規就農者の育成とともに農地の集約・再編が必要である。
- 農業の効率化を目的とした ICT の導入について、農地の地形等にそぐわないといった本町特有の事情や、農業従事者間で新しい技術の習得スピードに差があることが背景にある。
- 国は、国際競争力のある農業、持続可能な農業の確立を目的としてスマート農業を推進している。

VOICE

りんご農家の担い手不足は著しいよ

大鰐産りんごは品質がよいことは保証できるが、そのよさを可視化することが難しい

季節により人手を要する時期がある。存続には労働力の確保が必要

りんご栽培は、農地によって作付けのしやすさに差があり、その他の木材生産用等林地にするなどの検討も必要ではないか

農地の状況を情報共有できれば、農地の賃借がもっと活発になるのではないかな

もやっぴーも
もやし農家以外の実態はあまり知らなかったな～



(2) 計画の方針

多面的な森林の活用を図るとともに付加価値の高い農業・林業の町を目指します。生産基盤の整備促進、後継者の育成とともに組織化を進め、これまで個々の農家で取り組んできた課題に関係機関とのチームワークにより取り組みます。また、6次産業化や生産物加工品の販売、新規作物の導入等、高収益化への取組を促進し、「稼げる農業」の実現を図ります。

(3) チームワークによる農林業振興計画 | 施策と主な取組

施策① 農業生産基盤の整備

- 取組
- 優良農地の保全
 - 農道、用排水路、ほ場整備等の生産基盤の整備
 - 農地の流動化や作業受委託の推進
 - 生産性向上を目指したりんご園地の改植・補植の促進

施策② 農業を支える担い手の育成

- 取組
- スマート農業の推進
 - 農地の集積・集約による新規就農者・農家の育成や営農組織化の推進
 - 農地の流動化や規模拡大のための資金対策・営農指導の充実
 - 短時間就労等、多様な働き手の確保とマッチングの推進

施策③ 高付加価値型農業の展開

- 取組
- 大鰐農産物の PR の強化
 - ネット販売等多様な販路の拡充
 - 農業所得の向上を目的としたトマト等施設園芸による複合経営化の促進
 - 大鰐温泉もやしの普及と後継者育成の促進
 - 高収益化を目的とした新規作物導入の検討支援
 - 6次産業化など生産加工品導入の検討支援

施策④ 林業基盤環境の充実と関連産業の振興

- 取組
- 森林整備計画などに基づく山林の保育・管理の促進
 - 林道・作業道等の基盤環境の整備推進
 - 特用林産物の生産振興と特産品の開発・販売促進
 - 木材加工の施設整備や販路拡大への支援

施策⑤ 林業の担い手の育成

- 取組
- 森林組合と連携した林業従事者や後継者の育成推進
 - 機械化等による就労環境の改善促進

3-2 地場産業育成と商工業の振興計画

(1) 現況

- 人口減少、消費行動の広域化に伴い商店が減少している。
- 小規模であっても地域資源を生かした特色ある産業が必要である。
- 国は、郊外にシフトする都市機能の集約を図るべく、コンパクトなまちづくりとともに協働による中心市街地を生活拠点として再生する政策を推進している。

VOICE

10 年前、20 年前は町内に
音楽・雑貨・ゲーム等子供たちが遊
んだり買い物したりする
店舗があった

中心市街地に
空き店舗が増加している

今は公に子供たちが集える
場所がない

(2) 計画の方針

コンパクトで住民が豊かに生活できる町を目指し、広域化した生活圏との役割分担をふまえ、役場や JR 大鰐温泉駅を中心としたまちの機能集約・機能発揮を図ります。町のにぎわいをつくり、町で稼ぐ選択肢を増やすため、地場産業の育成とともに企業誘致を促進します。

(3) 地場産業育成と商工業の振興計画 | 施策と主な取組

施策① 商業の振興

- 取組
- 競争力のある店舗形成への支援
 - 商店街の魅力づくり
 - 新たな宣伝・販売手法による町製品の PR

施策② 工業の振興支援

- 取組
- 設備更新に対する融資等資金援助

施策③ 地域の資源を生かした地域型産業の振興

- 取組
- 商工会等関係機関と連携した商品開発力の強化
 - 経営力向上のための人材育成への支援充実

- 産業育成のための情報・意見交換の場の提供

施策④ 企業誘致の推進

- 取組
- 新しい働き方をふまえた企業誘致の推進
 - 優良企業の誘致のための定住自立圏等、周辺市町村との連携促進

3-3 観光・レクリエーションの振興計画

(1) 現況

- スキーは海外では根強い人気があるものの、国内ではプレイヤーが減少している。
- 町内宿泊施設は、一部施設に人気が偏っている。また、観光客が大鰐町内を散策し楽しむことが少ない。
- 国は、観光立国を目指しインバウンド増加施策を推進していたが、感染症の影響等が大きいことなどから国内観光需要の掘り起こしに取り組んでいる。

VOICE

スキー、温泉、りんご等
資源が多いものの
それぞれが連携していない

効果的な PR をしたいね
個々の温泉単体ではなく
「温泉の町」としての PR とか？



町民が自分で「ねぷた」を
制作するなど参加型の企画
があると、もっと身近に
楽しめないかな？

りんごを PR できるような
参加型のイベントはどう？
温泉スタンプラリーなど
温泉について「町民」が知る、
ふれる機会があってもいいよね

(2) 計画の方針

持続可能な観光の町を目指し、交流人口・関係人口の拡充につながる観光を促進します。DMO 等広域観光の取組に主体的に関わるとともに、津軽の中の「大鰐」として魅力が発揮され観光客の増加が町のにぎわいにつながるよう、コンテンツの充実と景観向上を図ります。

(3) 観光・レクリエーションの振興計画 | 施策と主な取組

施策① 観光資源の魅力向上

- 取組
- 時代に即した観光戦略の検討
 - 観光ルートの魅力向上

施策② 受け入れ体制としてのホスピタリティ向上

- 取組
- 観光関連従事者に対する研修体制の支援

施策③ 観光行動に対応した広域連携の推進

- 取組
- 弘前圏域の広域観光や地域連携 DMO との連携推進

4-1 防災・備災の強化計画

(1) 現況

- 急傾斜地が多く、地震や暴風雨等の災害や冬期の雪対策について配慮が必要である。
- 高齢者世帯の増加に伴い、非常時に取りこぼしのないようネットワークの構築が求められる。
- 災害の激甚化が恒常化しつつある中、国は、「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト ～いのちとくらしをまもる防災減災～」をとりまとめ、縦割りではなく各分野連携した、かつ個人個人の取組による防災・減災の強化を図っている。

VOICE

アンケートでは「防災」を重視する意見が多かったよ

(2) 計画の方針

安全で安心して暮らせる「災害に強いまち」を目指し、ハード・ソフト両面からの備えにより防災・減災を強化します。地域防災計画を適切に見直しつつ、住民一人ひとりの防災意識の向上を促進するとともに、火事や救急に対しては広域体制と補完し合えるよう地域での対応力向上に努めます。

(3) 防災・備災の強化計画 | 施策と主な取組

施策① 災害に強いまちづくりの推進

- 取組
- 地域防災計画の見直し（県の計画見直しと連携）
 - 砂防ダムや急傾斜地箇所の整備促進
 - 自主防災組織の維持・充実

施策② 消防・救急体制の充実

- 取組
- 耐震性防火水槽や消火栓などの消防水利の維持保全
 - 消防団員の各種教育・訓練の充実と団員の確保
 - 広域消防体制による消防・救急対応の充実

4-2 資源循環型まちづくりの推進計画

(1) 現況

- 森林資源に恵まれた自然環境にある。
- 再生可能エネルギーの導入が期待されるが、現状困難な状況にある。
- 2030 年 SDGs の達成に向け、国は、グリーン成長戦略等を打ち出し、環境負荷の低減と再生資源エネルギーの活用による新たな成長を目指している。

VOICE

多くの住民が、
まちのよいところとして
「自然環境」をあげているね

中学生アンケートでは、
ゴミが落ちている等を
気にする意見が多かったよ

(2) 計画の方針

恵まれた自然環境を守り、環境負荷の小さい町を目指します。自然資源（グリーンインフラ）に関する住民の意識啓発をベースに自然環境の保全や環境美化に取り組むと同時に、3R 運動の推進等生活レベルからの循環資源型まちづくりを推進します。

(3) 資源循環型まちづくりの推進計画

施策① 自然環境の保全

- 取組
- 環境基本計画策定の検討
 - 里山や水辺などの生態系に配慮した環境保全の推進
 - 関係機関と連携した、水質汚濁、大気汚染、悪臭問題等への改善対応

施策② 3R 運動の展開による快適な環境づくり

- 取組
- 津軽地域ごみ処理広域化に向けた分別区分変更に伴う周知等の徹底
 - 広域産業廃棄物処理やし尿処理運営への協力
 - 監視体制の強化など不法投棄の予防
 - ゴミ削減運動の促進
 - リユース運動の推進
 - 食べ残し食料品の堆肥化等、リサイクル化の取組の推進

4-3 人と車にやさしい交通の確保計画

(1) 現況

- 広域的な交通条件には恵まれ、路線バスとコミュニティバスにより近距離の交通ニーズに対応している。
- 生活圏の広域化に伴い、地域公共交通の確保維持と生活利便性のさらなる向上が求められる。
- 国は、人口減少やコロナ禍による交通事業の経営悪化など、交通が直面する危機を乗り越えるため、地域公共交通の維持・確保、MaaS やバリアフリー化の推進、公共交通・物流分野のデジタル化・グリーン化を推進している。

VOICE

買い物等、
車への依存度が高い

JR の終電時間が早い
少し遅くまで楽しみたい日
もある

(2) 計画の方針

通勤や買い物等生活のニーズに即した交通利便性が確保された町を目指します。公共交通を適切に維持するとともに、ICT の活用による利便性向上を図ります。自動車での安全な移動に資する道路整備を促進し、安全な歩行者空間の確保に努めます。

(3) 人と車にやさしい交通の確保計画 | 施策と主な取組

施策① 公共交通機関の利便性向上

- 取組
- 沿線自治体と連携した JR 及び弘南鉄道への利便性向上の働きかけ
 - コミュニティバス等身近な公共交通の確保・維持

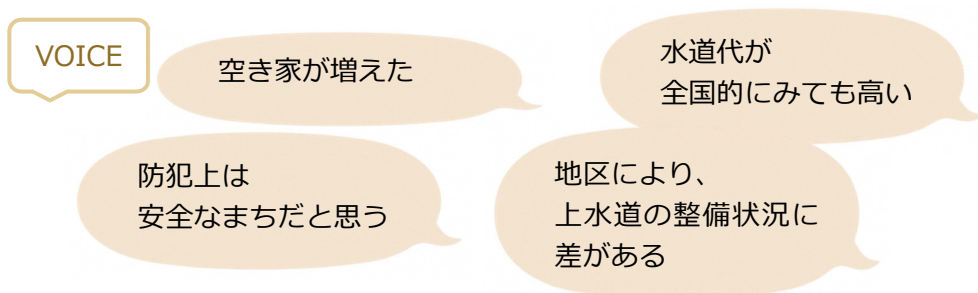
施策② 安全な道路の確保

- 取組
- 国・県道の整備促進
 - 橋梁の長寿命化等の整備要請
 - 町道の適切な維持管理・整備促進
 - バリアフリー化等を含む安全な歩行空間の確保
 - 通学路における交通安全の確保

4-4 住・生活環境の充実計画

(1) 現況

- 住宅の適切な管理運営や周辺環境の充実が求められる。
- 上下水道環境については持続可能な安定した供給体制が求められ、県は上水道の広域化を検討している。
- 住宅事情や経済・社会情勢の変化に伴い、国は少子高齢化、環境問題等に応える居住環境の形成とセーフティネットの構築を推進し、地方居住を支援する方針である。



(2) 計画の方針

安全で住みやすい町を目指し、防犯体制を強化するとともに誰もが安心して住めるよう住環境の充実を図ります。都市インフラを適切に維持管理し、住民がそれぞれのライフステージに応じた居住環境が確保できるよう努めます。サイバー犯罪対策等住民の意識啓発に努め生活の安全性向上を図ります。

(3) 住・生活環境の充実計画 | 施策と主な取組

施策① 公共施設・設備の持続可能な管理・活用

- 取組
- 長寿命化計画に基づく施設等の適切な維持管理
 - 官民連携による公園管理・活用の検討

施策② 安定した上下水道環境の確保

- 取組
- 安全で安定した水道水の供給
 - 広域化検討を含む持続可能な上水道の維持管理
 - 水洗化の周知・維持管理
 - 合併処理浄化槽の整備促進

施策③ 住宅環境の充実

- 取組
- 公園・河川の自然遊歩道等の適切な維持管理
 - ニーズに応じた住宅の整備促進
 - 民間事業者との連携等住宅についての相談・情報提供の充実
 - 効率的な除雪対策の推進
 - 流融雪溝の整備

施策④ 生活の安全性の向上

- 取組
- 住民による歩道やガードレール等の交通安全施設の情報提供
 - 総合的な防犯体制の強化（防犯意識・防犯体制・防犯施設）
 - 安全な消費者生活の確保

基本方針 5 持続可能なまちづくり体制を築く

＜まちの運営分野＞

5-1 協働によるまちづくり計画

(1) 現況

- 住民の主体的な活動が展開されている。
- 住民主体の活動の分野・量・質を拡充することが望ましい。
- 国は、地方創生を目指し、産官学の連携による国の重要施策（デジタル技術の活用、ローカル脱炭素の推進）と連動した事業や地域コミュニティを支える地域運営組織への支援を推進している。

VOICE

まちづくりについて
フラットに意見交換
できる場があると
いいな

アンケートを見ると
中学生は
「何かしたい」という気持ち
はあるものの、具体的に何が
出来るのかイメージを持つこ
とが難しいみたい

(2) 計画の方針

「わになって」に表される地域共生社会の実現という基本理念に基づき、住民と行政が協働でまちづくりに取り組む町を目指します。住民活動を育成・支援するとともに、住民と関係団体・行政が情報共有し話し合う場をつくるなど協働によるまちづくり体制構築に向けた土台づくりに取り組みます。

(3) 協働によるまちづくり計画

施策① 多様な住民活動の育成・支援

- 取組
- 大鰐町男女共同参画推進計画に基づく施策の推進
 - ボランティアや NPO 等民間交流団体活動の育成・支援

施策② 住民自治の促進

- 取組
- 各種機会を捉えた自治意識やコミュニティ意識の啓発
 - 生涯学習活動やセミナーの開催などを通じた主体的な関わりの啓発・促進

施策③ 情報共有の促進

- 取組
- 広報や議会だよりによる執行機関からの情報提供の促進
 - インターネットを活用した柔軟な情報提供や広報活動の推進
 - まちづくり意見交換会の運営（まちづくり団体と若者が協働して取り組む地域活動の企画・実践の機会づくり）

5-2 財政健全化と持続可能な行財政の運営計画

(1) 現況

- 財政健全化を達成し、引き続き適正な財政運営が求められる。
- 長期戦略的な子供たちの学力向上や仕事への支援が求められる。
- 社会保障関係費の増加が見込まれる中、地方公共団体が行政サービスを安定的に提供し、地域社会のデジタル化や防災力強化などの重要課題に取り組めるよう、財源を確保している。

VOICE

中学生アンケートでも町の財政状況を心配する意見があったよ



町の財政に関心がある中学生がいることがうれしいよ！

(2) 計画の方針

「みんなポカポカ」に表される経済的な潤いの実現を町の財政上でも目指します。デジタル化と広域連携をうまく組み合わせ効率的な行政運営を行うとともに、引き続き財政健全化と財源確保に取り組みます。

(3) 財政健全化と持続可能な行財政の運営計画 | 施策と主な取組

施策① 合理的・機能的な行政運営

- 取組
- 行政機構の改善と意識改革の推進
 - 職員の能力と資質向上のための研修体制の強化
 - 個人情報保護を前提にした、情報公開制度の適切な運営
 - 弘前圏域自立定住圏等、広域行政の推進

施策② 財源の確保と適正で効果的な財政運営

- 取組
- 財政健全化努力の継続
 - 地方公会計化による適切な経営管理
 - 納税義務者へのサービスの充実と、安定した財源の確保

資料編

資料 1 社会背景の変化

(1) 予測困難な時代

地球温暖化に伴う気候変動や異常気象、台風や地震の大規模で激甚化した自然災害、感染症の世界的流行といった事象が、全世界的に従来の予測を超える規模で起き、経験則が通用しない困難をもたらしています。また、人の流れや物流、情報等の国際的なネットワークが構築され、1 か所で起きた変化は瞬間に世界へ波及するようになりました。

現代の特質は「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」と表され、問題自体の変動が激しいことにより従来の課題解決型のアプローチが困難となっています。このため、この計画においても「何のため」「誰のため」という目的を明確にすることが重要です。

(2) 世界共通の目標

前述の世界共通の問題解決に向け、2 つの世界共通の目標が採択され、我が国を含む各国が協力して現状を改革したいと取組を進めています。

目標の1 つは、「誰も置き去りにしない世界」と「持続可能な社会」の実現に向けた国連サミットにおける SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の実現、もう1 つは、地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けた「2050 年カーボンニュートラル」の実現です。このため、この計画においてもグローバルな目標にローカルに参加し挑戦していくことが求められています。



(3) 我が国の方針

我が国においては引き続き人口減少・少子高齢化への対応が大きな課題となっており、感染症の世界的流行が経済的に大きな影響を与え既存の様々な問題が浮き彫りにされる中、世界共通の目標をふまえ、我が国は「人材育成」「デジタル化の推進」「グリーンインフラの活用」を政策の大きな柱としています。このため、本町においても政策の柱をふまえ計画を策定しました。



図 社会背景

解 説

「選択する未来」は少子化・人口減少の克服に向けたビジョン

「選択する未来」は、内閣府が設置した「選択する未来」委員会が、少子化・人口減少の克服、生産性の飛躍的向上や地域の再生などに向け 5 年以内に集中実施する方策を示したもので、令和 2 年にとりまとめた中間報告が「選択する未来 2. 0」です。

報告では、新型コロナウイルス感染症の流行による影響をふまえ、「選択すべき未来」として「新たな日常（ニューノーマル）」を掲げ、「働き方改革」「デジタル化の推進」「人的投資」「格差拡大の防止」の取組が必要であると提言しました。

解 説

IT 新戦略は「社会全体のデジタル化」を目指す政策

我が国の IT 戦略は平成 13 年の「e-Japan 戦略」に始まり、主にインフラ整備と IT 活用を推進してきました。「IT 新戦略」では「社会全体のデジタル化」に向けて、各種取組を推進することになっています。特に、地方公共団体の手続きのオンライン化、地方公共団体の業務プロセス・情報システムの標準化など、行政のデジタル化が重要視されています。

解 説

カーボンニュートラルとは温室効果ガス削減の取組

「カーボン」＝「二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス」、「ニュートラル」＝「中立的・中間的」などの意味です。温室効果ガスは近年の気候変動の一因と考えられており、排出削減に取り組むことが世界共通の目標となっています。

我が国では、2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを令和 2 年に宣言しました。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理等による「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

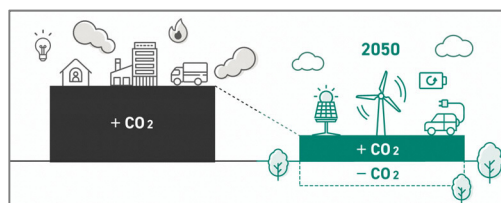


図 カーボンニュートラル

出典：脱炭素ポータル（環境省）

解 説

グリーン成長戦略はカーボンニュートラルに伴う産業政策

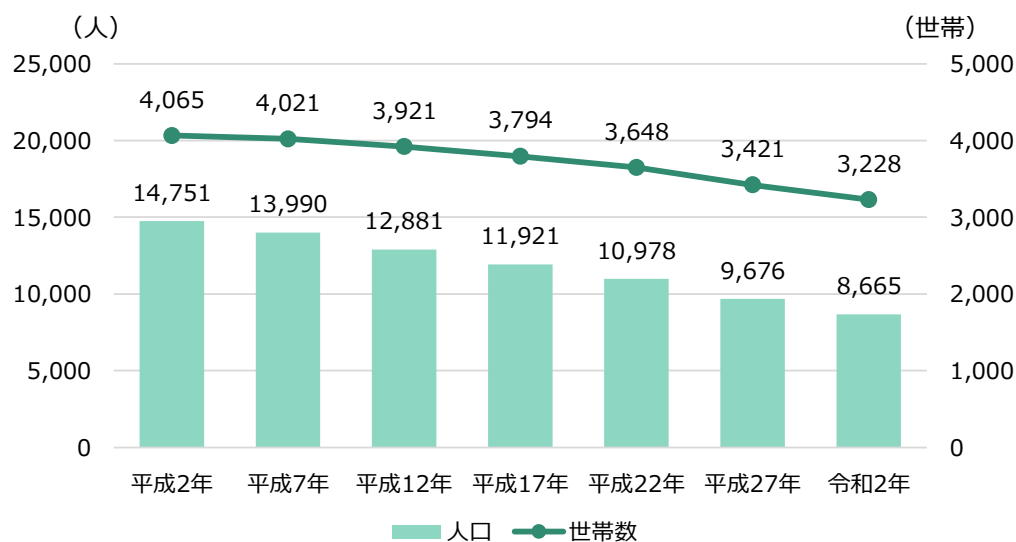
上記の「2050 年カーボンニュートラル」宣言に伴い、これまでのビジネスモデルや戦略を根本的に変えていく必要が生じました。経済成長と脱炭素化（温室効果ガスの削減）を結び付けることを目指す、経済成長と環境適合をうまく循環させるための産業政策が「グリーン成長戦略」です。新型コロナウイルス感染症の拡大による経済的なダメージからの回復を脱炭素化と結び付け、さらにエネルギー転換を共存させようとする流れは多くの国で注目されています。グリーン成長戦略では、成長が期待される 14 の重要な産業分野を特定し、資金や人材育成などの支援方針を示しています。

資料 2 大鰐町の概況

(1) 人口の動向

- 本町の総人口は、1990（平成 2）年以降減少傾向が続いている。
- 世帯数は人口の減少率と比較してその傾向は緩やかだが、核家族化や世帯の少人数化が進行している。
- 少子高齢化が進行し 65 歳以上人口は 2020（令和 2）年に 40%を超え、43.5%となっている。
- 将来人口は 2040（令和 22）年において 2015（平成 27）年から約半減すると予測されている。

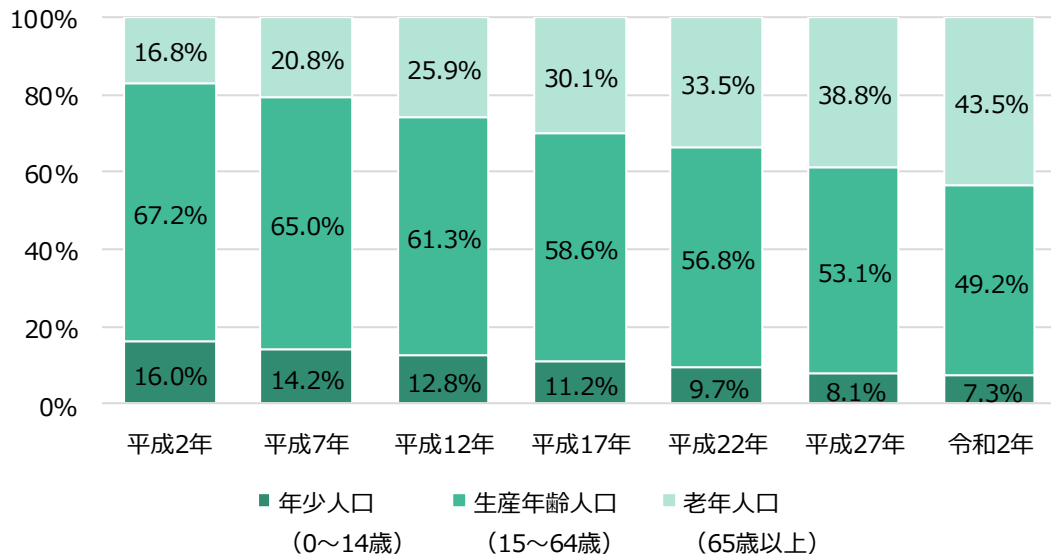
① 総人口と世帯数の推移



〔資料：国勢調査〕

図 総人口と世帯数の推移

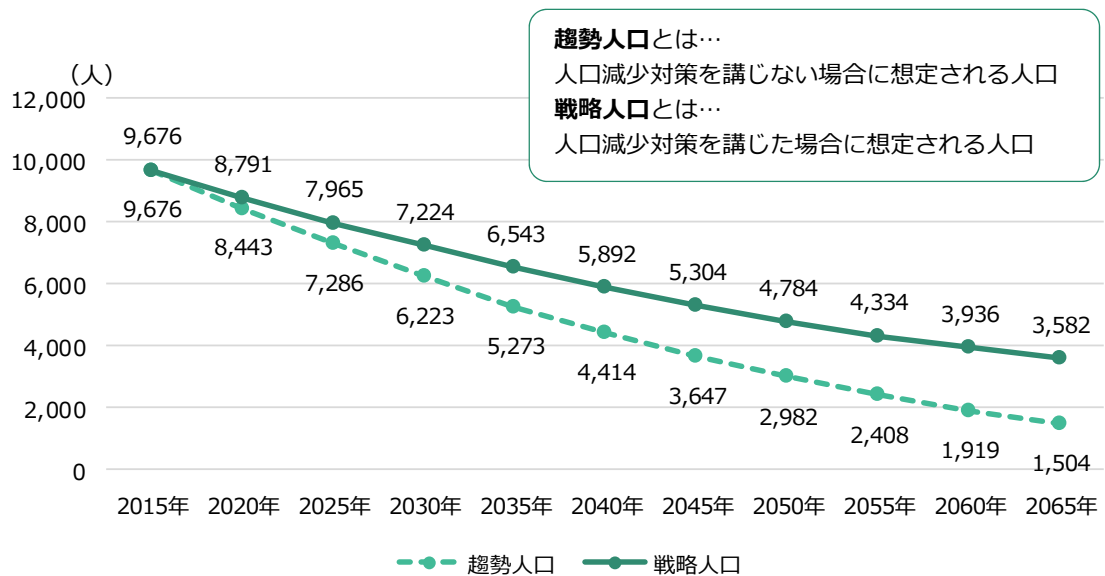
②年齢 3 区分別人口の推移



〔資料：国勢調査〕

図 年齢 3 区分別人口構造の推移

③将来推計



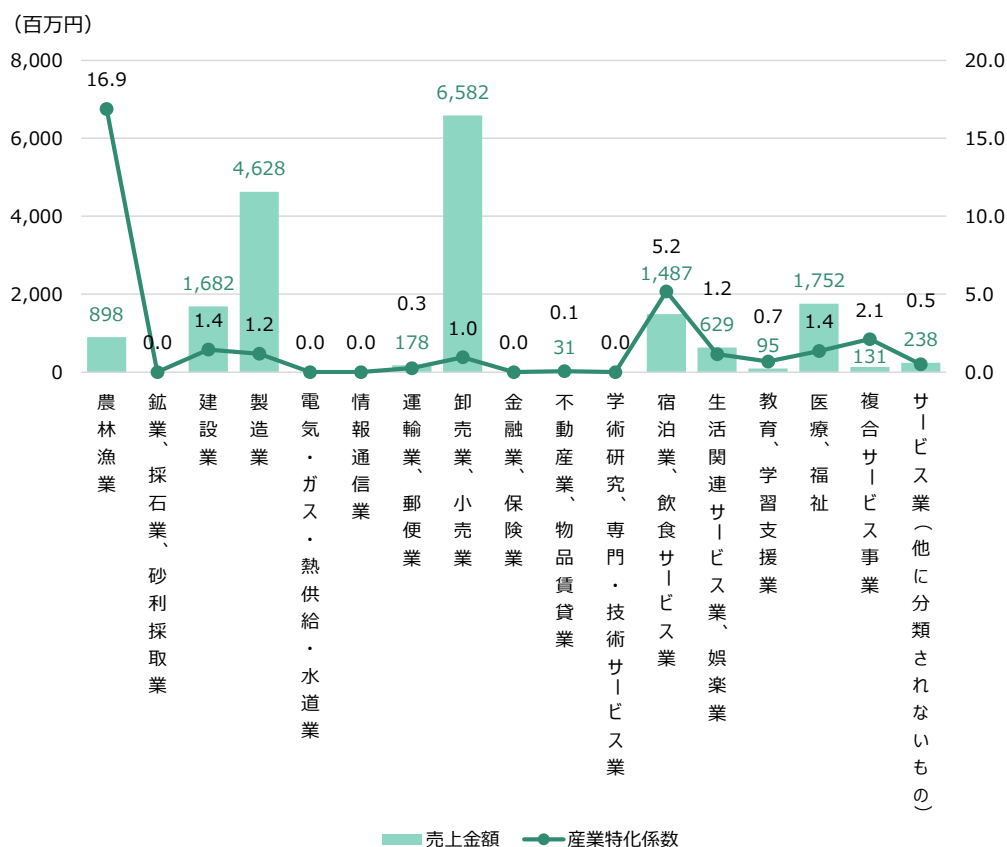
〔資料：大鰐町人口ビジョン改訂版〕

図 趨勢人口と戦略人口

(2) 産業の動向

- 本町の特色ある（産業特化係数が高い）産業は「農林漁業」、「宿泊業、飲食サービス業」である。
- 本町の雇用力と稼ぐ力の両方を高く兼ね備えた産業は、「宿泊業」、「業務用機械器具製造業」である。
- 本町の雇用力と稼ぐ力の両方を高く兼ね備えた産業である「宿泊業」を含む観光についてみると、観光入込客数は2017（平成29）年を境に減少傾向にある。
- 本町の特徴的な産業である農業は、2000（平成12）年から2015（平成27）年の15年間で農家数、農業就業人口ともに半減した。

①売上高でみる産業



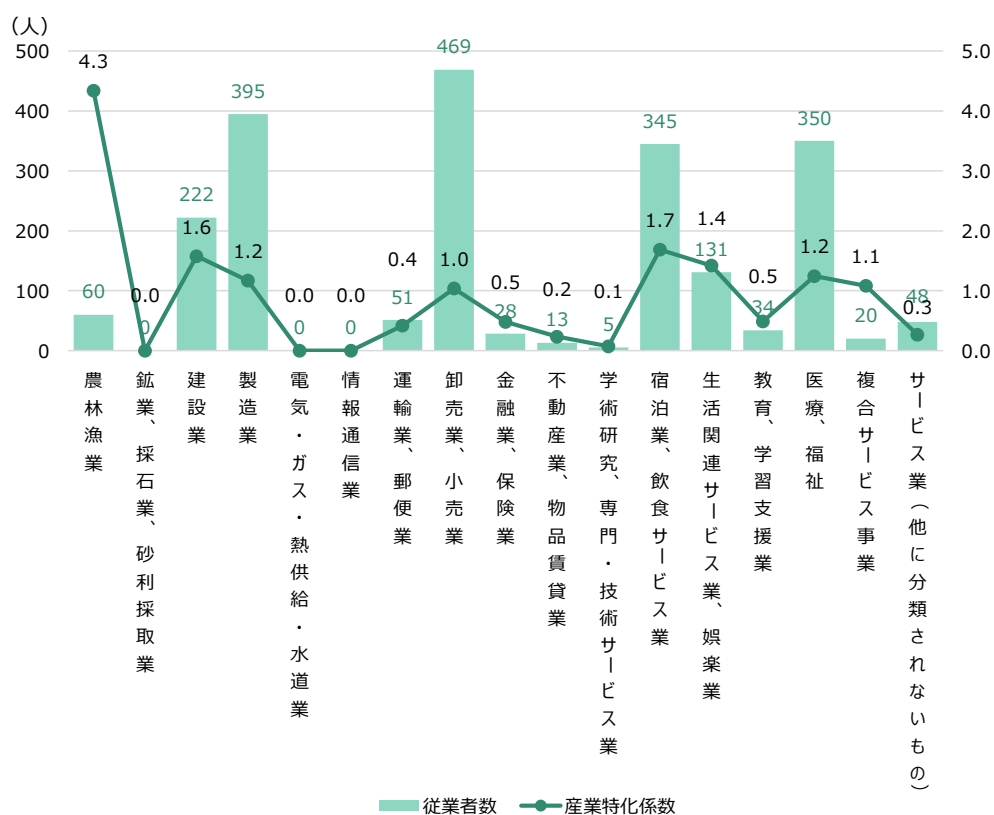
※「金融業、保険業」、「学術研究、専門・技術サービス業」の売上金額は秘匿のため表示していない

※産業特化係数＝大鰐町の産業別売上金額の構成比／全国の産業別売上金額の構成比

〔資料：平成28年経済センサス-活動調査〕

図 産業別売上金額と産業特化係数

②雇う力でみる産業

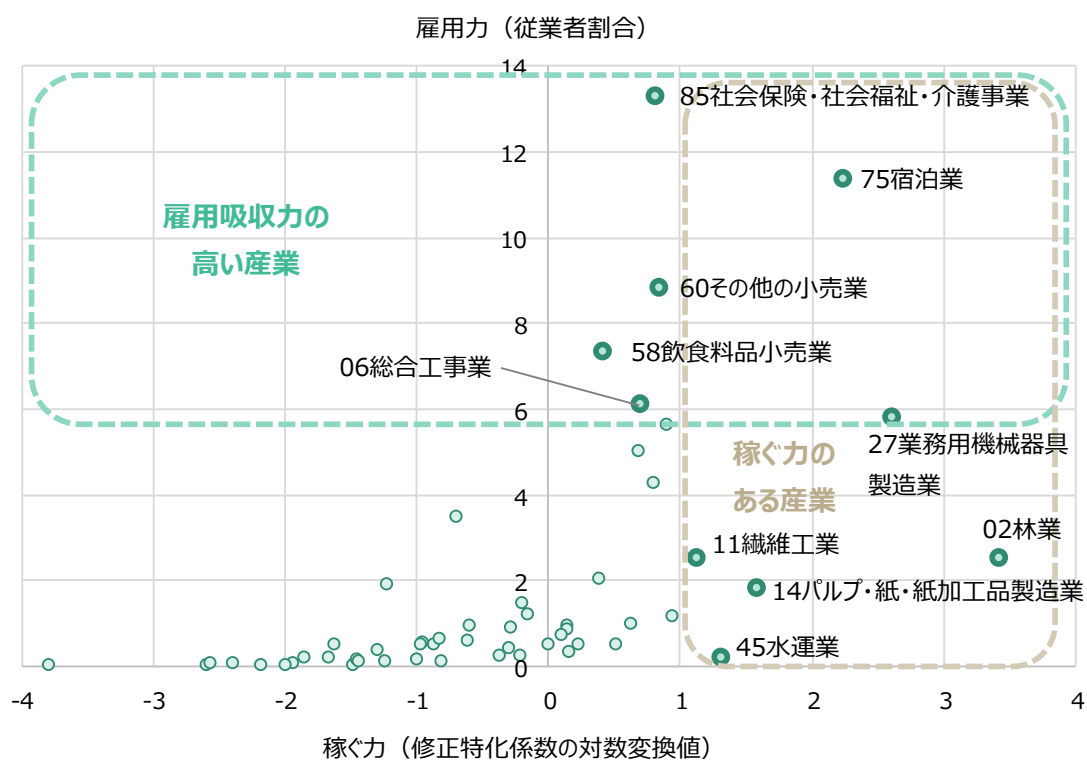


※産業特化係数＝大鰐町の産業別従業者数の構成比／全国の産業別従業者数の構成比

〔資料：平成 28 年経済センサス-活動調査〕

図 産業別従業者数と産業特化係数

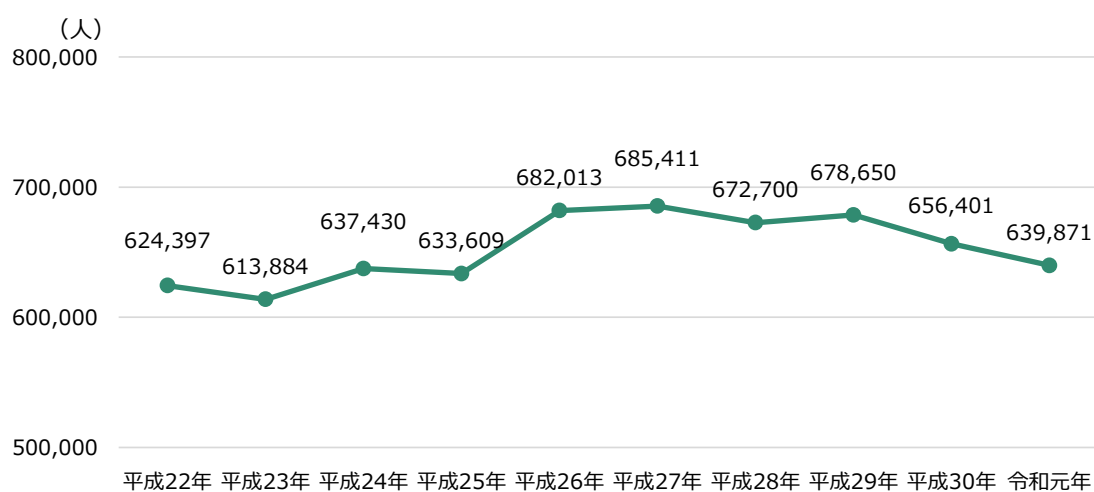
③売上高×雇う力でみる稼ぐ力



〔資料：平成 28 年経済センサス-活動調査〕

図 産業・雇用創造チャート

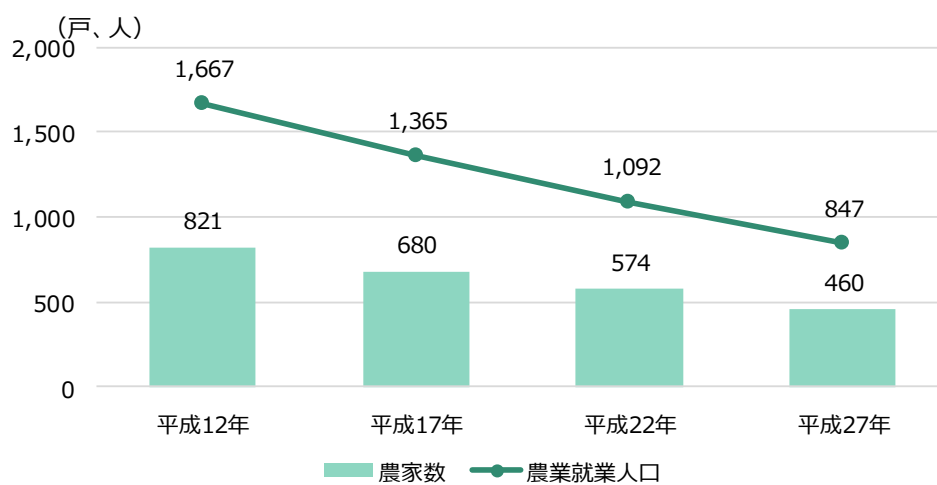
④ 観光



〔資料：青森県観光入込客統計〕

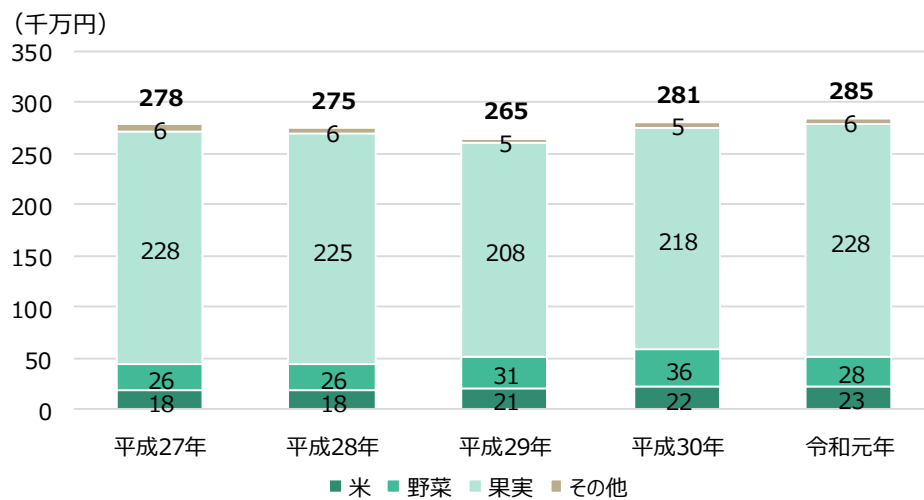
図 観光入込客数の推移

⑤農家数と農業就業人口、農業産出額の推移



〔資料：農林業センサス〕

図 農家数と農業就業人口の推移（販売農家）



〔資料：市町村別農業産出額（推計）〕

図 農業産出額の推移

(3) 財政状況

- 主要指標による本町の財政状況をみると、全体的に危機的な状況を脱しているが、引き続き自治体の財政力安定が望まれる。

① 財政力指数

財政力指数とは…

地方公共団体の財政力を示す指数。財政力指数が 1.0 を上回れば地方交付税交付金が支給されない不交付団体となる。

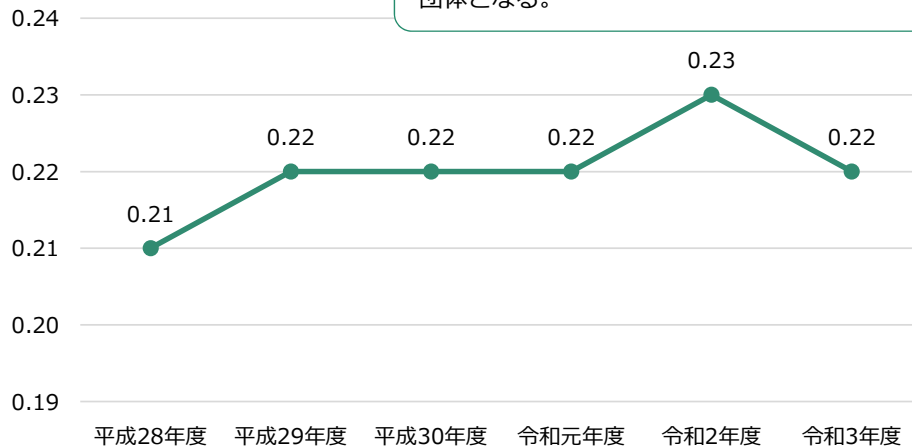


図 財政力指数

② 経常収支比率

経常収支比率とは…

財政構造の弾力性を測定する指標。低いほど財政運営に弾力性（余裕）があり、政策的（自由）に使えるお金が多くあることを示している。

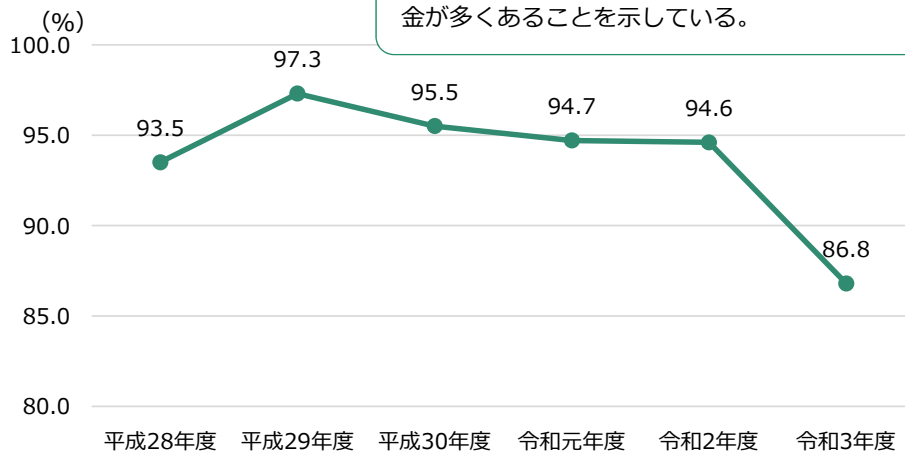
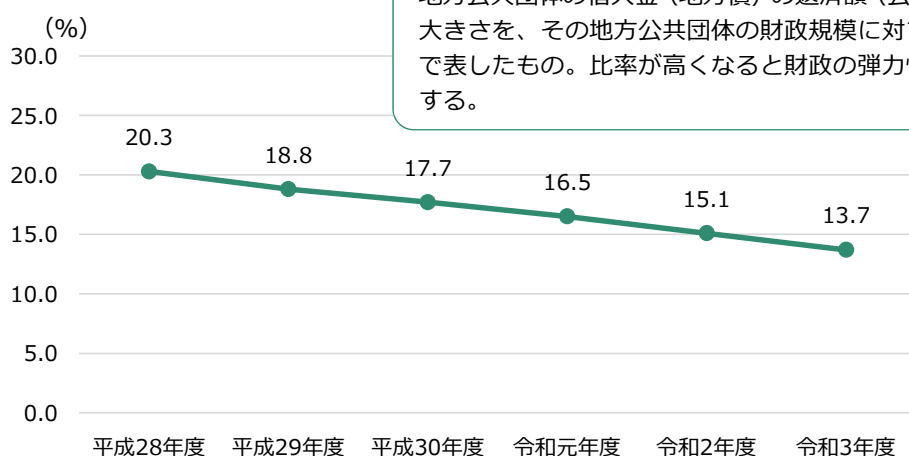


図 経常収支比率

③実質公債比率



実質公債比率とは…

地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。比率が高くなると財政の弾力性が低下する。

〔資料：地方公共団体の主要指標一覧〕

図 実質公債費比率

もやっぴーのちょびっと解説

財政って難しい感じがするから。。

令和3年度、財政力指数が1.0を上回った自治体は東京都のみなんだ。
青森県内市町村の財政力指数平均値は0.34、
大鰐町は青森県の平均をちょっと下回っているね。

一方、経常収支比率は令和2年度から-7.8ポイント改善！やったね！

実質公債費比率には2つの基準値があって

- 早期健全化基準＝令和2年度基準値 25.0%
- 財政再生基準＝令和2年度基準値 35.0%

この基準値を下回ってればひとまずセーフ！

大鰐町はどちらの基準値も下回っていて

令和2年度から-1.4ポイントの改善！

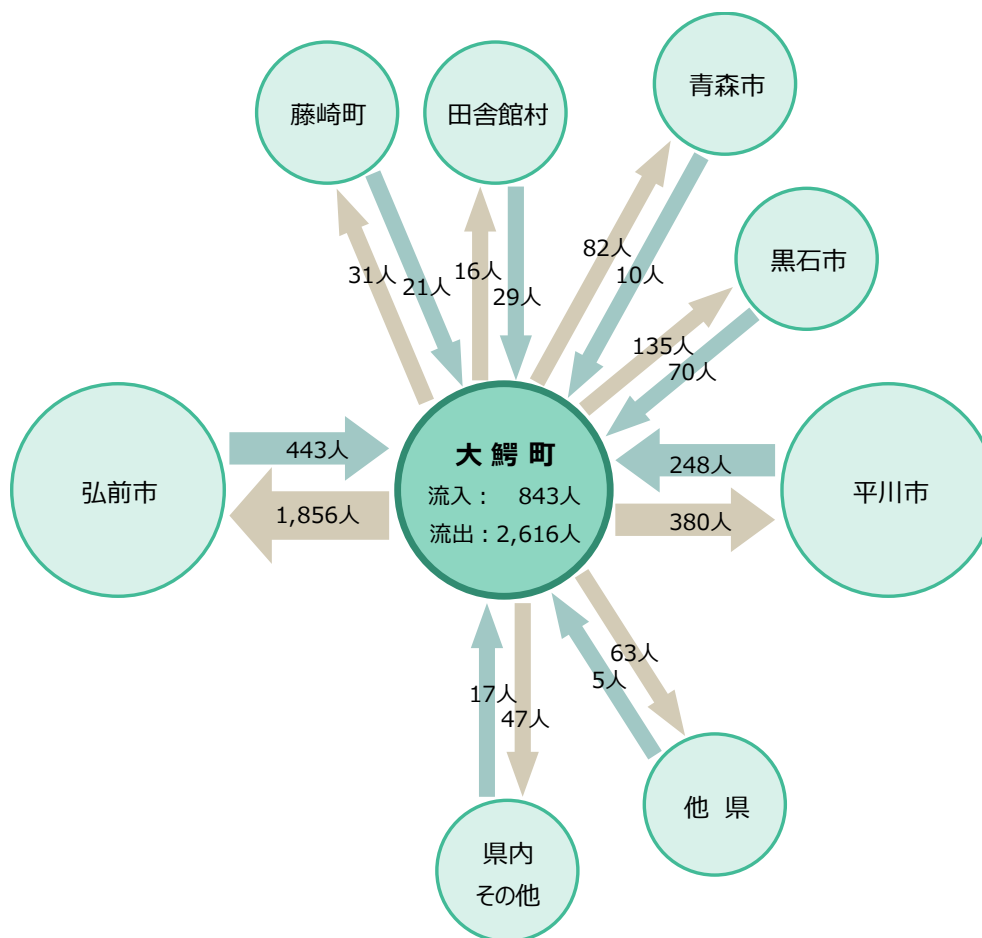


もっと詳しく知りたい人は

総務省のホームページを見てみると面白いよ。

(4) 近隣市町村との関わり

- 通勤・通学の状況からみると、町内への流入元、町外への流出先はいずれも弘前市が第1位、平川市が第2位となっている。
- 本町と両市間で通勤・通学する人は、流入流出とも8割以上を占めており、弘前市、平川市とのつながりの強さがうかがわれる。



〔資料：平成27年国勢調査〕

図 通勤・通学状況

資料 3 前計画の検証

前計画の取組の進捗とこの計画における取組方針について、所管する各課（局・所）に対し、ヒアリングによる検証を行いました。

（1）取組状況

①取組の進捗

- 前計画の取組のうち全体の約 8 割が「進行中」である。
- 「未着手」あるいは「不明」とされた取組は、主に資源循環型まちづくりや森林の多面的な利用、感染症流行の影響を受けたことによる国際交流と関連する取組であった。

※ヒートマップ表示：数値が大きいほど緑色が濃い

今期の進捗状況	完了	進行中	未着手	不明	総計
施策の大綱1（自然環境・防災・資源）		23	6		29
施策の大綱2（土地利用・交通・住生活環境・情報化）	4	49	11	1	65
施策の大綱3（産業）		41	16	1	58
施策の大綱4（教育・文化）	3	27	3	7	40
施策の大綱5（医療・福祉・子育て）	3	66	8		77
施策の大綱6（協働・行財政）	2	24			26
総計	12	230	44	9	295
	%	4.1%	78.0%	14.9%	3.1%

②この計画における方向性

- 前計画における取組のうち全体の約 7 割をこの計画においても「継続」とした。
- 「拡充」は、産業に関して最も多く、次いで協働、情報化に関する取組が多い。「見直し」は国の政策の変化に合わせ、保健・医療・福祉に関して多い。完了した事業等は「縮小・廃止」とした。

※ヒートマップ表示：数値が大きいほど緑色が濃い

次期方向性	拡充	継続	見直し	縮小・廃止	総計
施策の大綱1（自然環境・防災・資源）	1	25	2	1	29
施策の大綱2（土地利用・交通・住生活環境・情報化）	8	49	5	3	65
施策の大綱3（産業）	14	34	5	5	58
施策の大綱4（教育・文化）	2	28	2	8	40
施策の大綱5（医療・福祉・子育て）	3	62	9	3	77
施策の大綱6（協働・行財政）	9	14	2	1	26
総計	37	212	25	21	295
	%	12.5%	71.9%	8.5%	7.1%

(2) 各分野における問題点とこの計画への展望

各分野の問題点やこの計画における展望について、優先度が高いとされた内容を中心に、主な意見等を次に示します。

① 自然環境・防災・資源等について

自然環境	●「木育教室」等、林業と教育・観光の共同事業を推進したい。
防災	●アプリの活用等による災害時の情報収集・伝達システムを充実したい。 ●除雪対策の強化。高齢化に伴うオペレーターの減少が問題である。
資源	●活用可能な再生可能エネルギーを引き続き検討する。

② 土地利用・交通・住生活環境・情報化について

土地利用など	●駅前拠点整備を含む中心市街地の魅力づくり、大鰐らしい景観軸の形成が重要である。
交通など	●道路の管理主体によらず、通学路における安全確保が重要である。 ●デジタル化による予約システムの導入等デマンドバス（地域公共交通）の利便性の向上を図りたい。
住生活環境	●継続的な水道管の更新整備が必要である一方、給水人口は当初計画の半分以上であり財政状況は厳しい。安定した「安全な水」の供給と財源確保の両立が課題である。
情報化	●観光や防災の視点から公衆無線 Wi-Fi の整備が必要ではないか。 ●国の ICT 推進政策と連動し、町としても情報化を推進する。

③ 産業について

農業	●農業は町の基幹産業として位置付けられているが、担い手の減少が続いている。農業所得の向上を目標とし、基盤整備・法人化・複合経営化を並行して推進する。 ●新規就農者の獲得と育成、支援の充実が必要である。 ●生産物の付加価値を向上させるとともに多様な販路の拡大が望まれる。
林業	●防災の視点から、森林整備計画などに基づく山林の維持管理が引き続き重要である。 ●国の政策と連動し、林道の整備を進める。

商業	●商店街の活力が減衰し、空き店舗が増えている。商工会と連携し支援していきたい。一商店の問題ではなく、中心市街地の魅力づくり・大鰐らしい景観軸の形成等と合わせて対処することが必要ではないか。
工業	●工業系の事業者との連携を強め、実情に合わせた支援を行う必要がある。 ●地域の資源を生かした、新たな町の特色につながるような産業を見出したい。
観光業	●宿泊客数がまちのにぎわいにつながっていない実情がある。 ●弘前圏域の広域観光や地域連携 DMO と連携し、まちあるきコースの魅力化など中心市街地の魅力づくり・大鰐らしい景観軸の形成が必要である。 ●リモート観光の推進など社会情勢の変化に対応した観光コンテンツが必要である。

④教育・文化について

幼児・学校教育	●幼児教育と学校教育、教育機関と家庭や地域の連携が引き続き重要である。 ●地産地消の学校給食、食育の充実を図る。
生涯学習	●令和 4 年度にコミュニティスクールを開設。生涯学習の推進体制を確立する。
スポーツ	●スポーツ施設の充実を図りたい。
芸術・文化	●国際交流の推進については新型コロナウイルス感染症の影響等により停滞しているが、国の ICT 推進政策と連動し、インバウンドに頼らない交流の推進も検討できるのではないか。

⑤医療・福祉・子育て支援について

医療・保健	●国の政策と連動し、弘前圏域の中核病院を軸とした医療体制を構築していく必要がある。 ●「平均寿命を 1 歳延ばそう」を目標に、健康寿命延伸の取組を継続する。
地域福祉	●多世代において「共助」の必要性を認識し活動に参加してほしい。高齢者世帯の支援、地域で見守る体制の構築が必要である。
子育て支援	●子育て支援の充実は定住促進の視点からも重要である。 ●ひとり親家庭からの相談は生活困窮に関する件が多く、ニーズを見直しながら自立支援とは分けて対処する必要がある。

高齢者福祉	●国の政策と連動し、引き続き介護予防を推進し保険事業の充実を図る。
障がい者福祉	●緊急時の防災・防犯体制の強化については、障がい者に限らず要援護者として捉え、対応の充実が求められる。

⑥協働・行財政について

協働	●まちづくり団体が少ない印象があり、新しい団体や人づくりの部分の強化が必要と考えている。
行財政	●国の ICT 推進政策と連動し、庁内の情報インフラ整備による事務処理の合理化や効率化を進める。

資料 4 一般アンケート

(1) 実施概要

● 対象者	町内在住の満 16 歳以上の方 1,000 名（無作為抽出）
● 実施方法	郵送による配布・回収
● 実施時期	2021（令和 3）年 12 月
● 回収数	373 票（37.3%）

表 設問構成

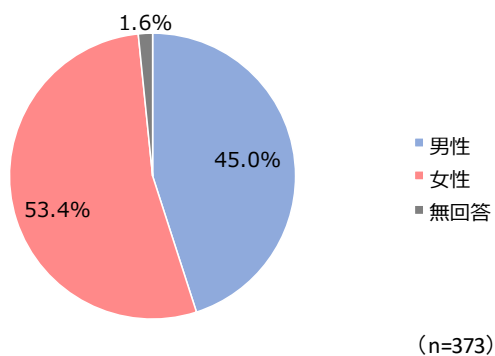
I あなた自身について	
問 1	性別／年齢／居住歴／居住地区／職業／通勤・通学先
II あなたと地域について	
問 2	町への居留意向
問 3	居留意向が低い理由
III まちづくりの取組について	
問 4	現行の施策についてこれまでの満足度／今後の重要度
問 5	地域づくり活動の参加状況・参加意向
問 6	今後 10 年間で町が優先して取り組むべき分野

(2) 回答結果

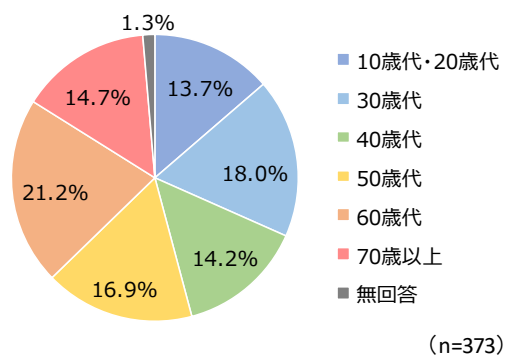
- 居留意向は前回より上昇し、どちらかといえば「住み続けたい」が約 8 割と高い。
- 「住みたくない理由」として「冬期間における除雪が大変だから」「日常の買い物が不便だから」が多い。
- 今後特に留意すべき施策としては、「まちの骨格づくり」と「観光の振興」が上位である。
- 地域づくり活動では「健康づくり」「防災」「まちづくり」への参加意向が高い。
- 今後 10 年間で優先的に取り組むべき分野は全体として、票の多い順に「子育て等」「健康・福祉」「産業」となっている。

問1 属性

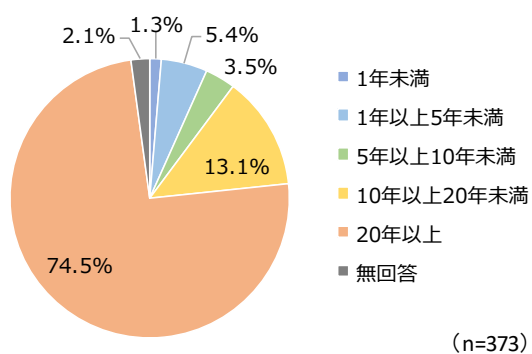
1-1 性別



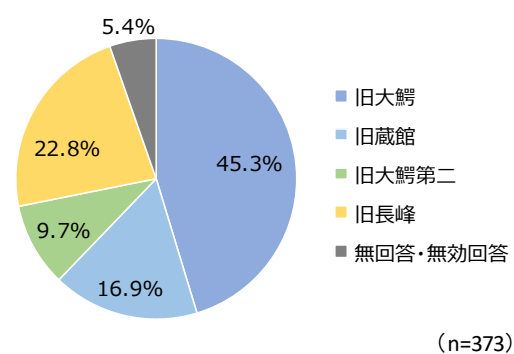
1-2 年齢



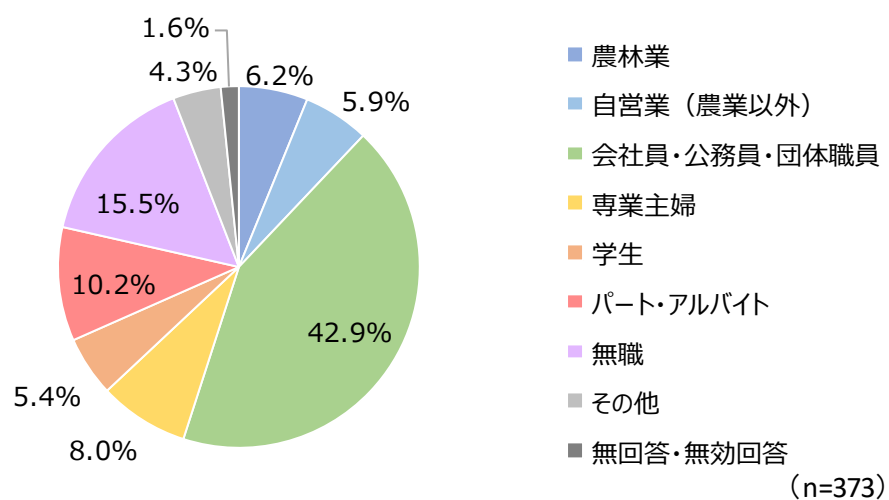
1-3 居住歴



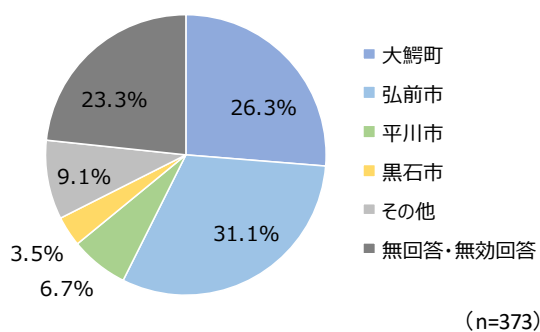
1-4 居住地区



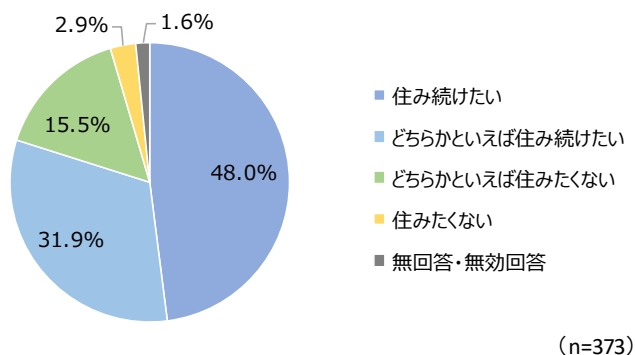
1-5 職業



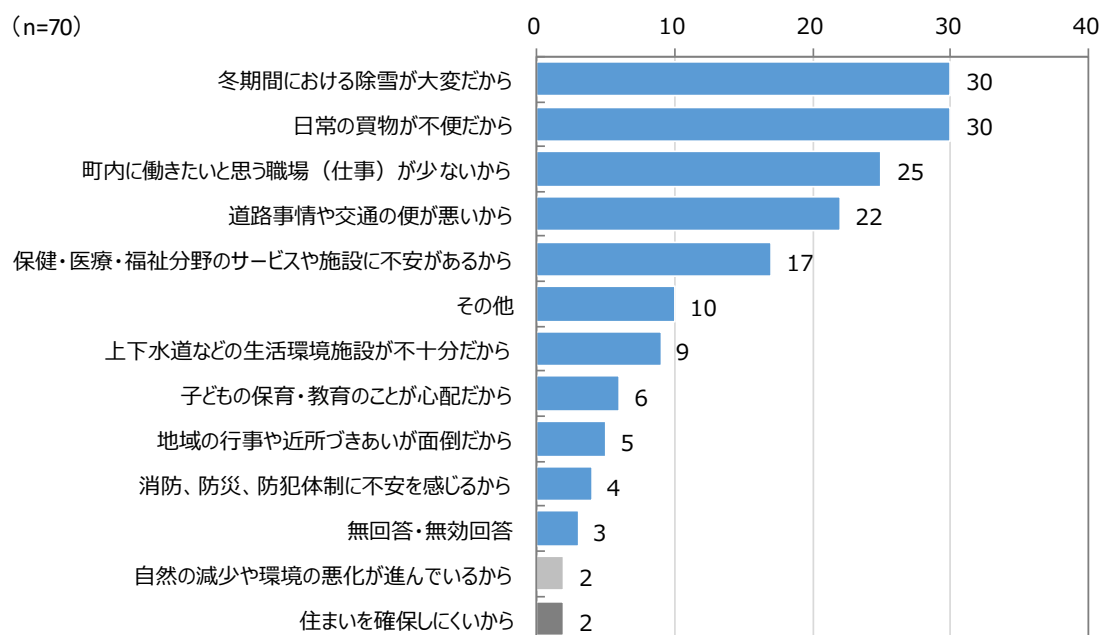
1-6 通勤・通学先



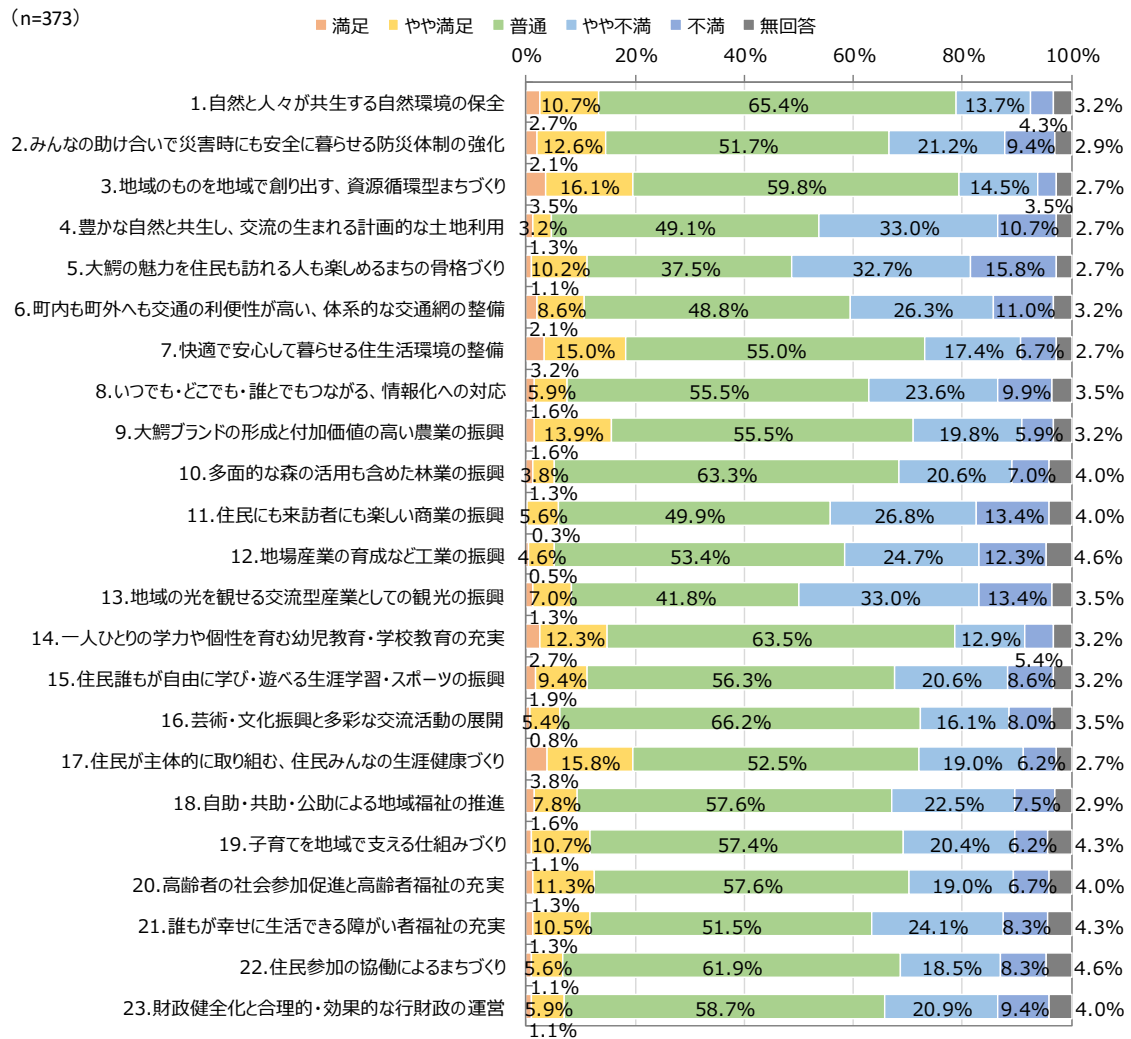
問 2 居住意向



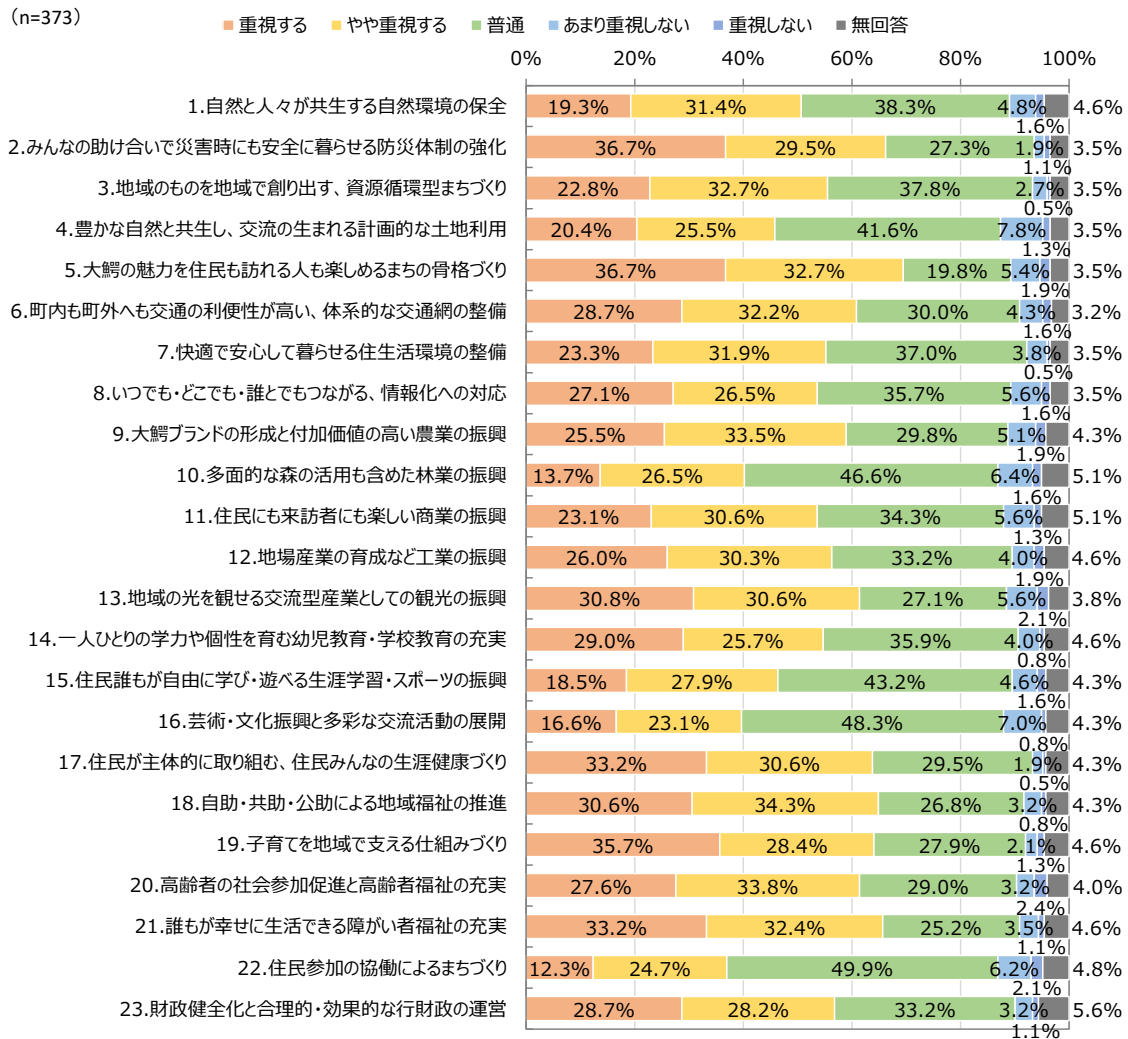
問 3 「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」を選んだ理由



問 4 ①これまでの施策の満足度



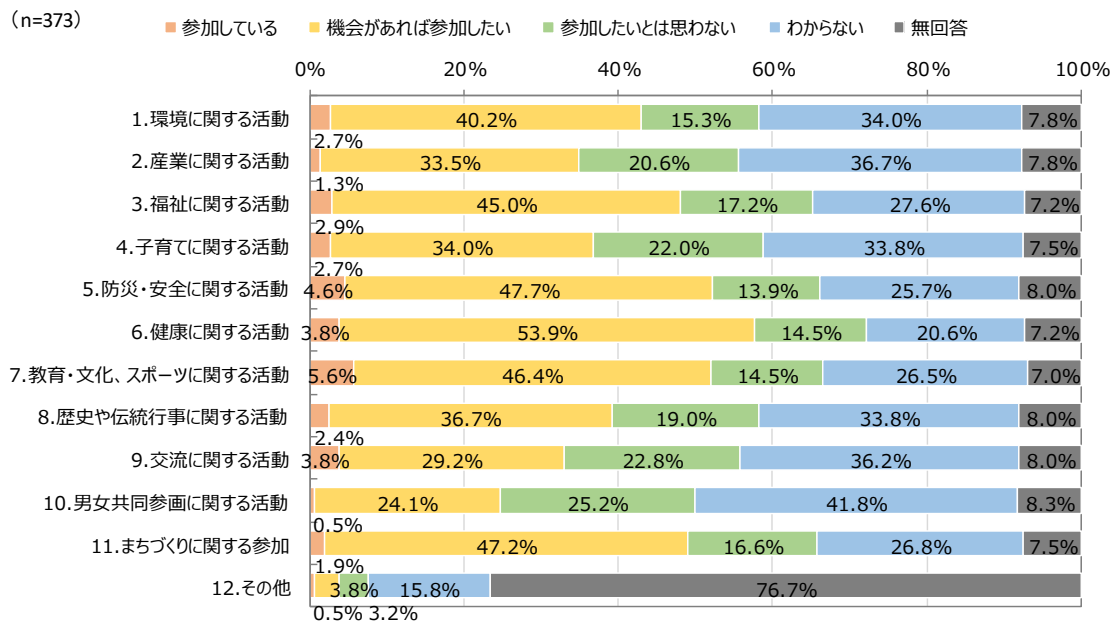
問 4 ②今後の施策の重要度



上位 3 項目

重視する+やや重視する	重視するのみ
5.まちの骨格づくり	2.防災体制の強化
2.防災体制の強化	5.まちの骨格づくり
21.障がい者福祉の充実	19.子育てを地域で支える仕組みづくり

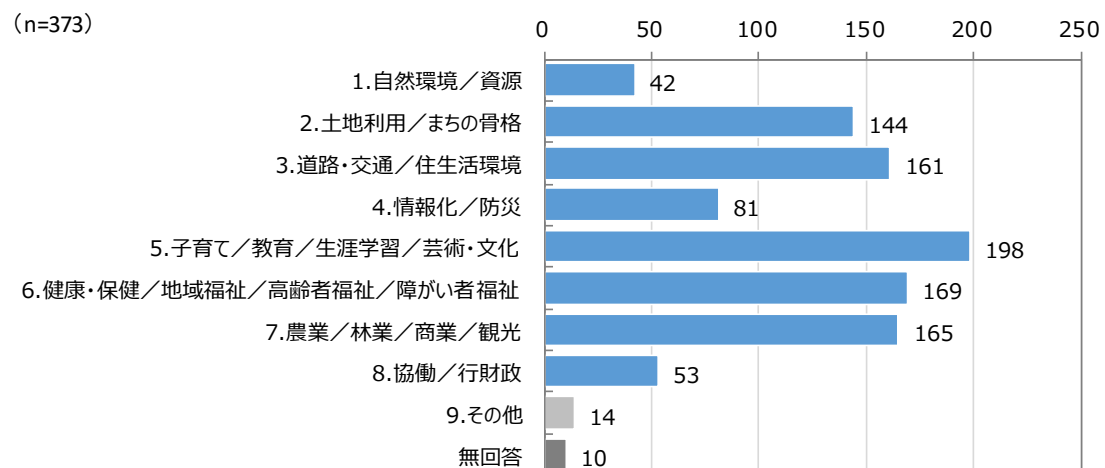
問 5 地域づくり活動への参加状況・参加意向



上位 3 項目

参加している	機会があれば参加したい	参加したいとは思わない
7.教育・文化、スポーツに関する活動	6.健康に関する活動	10.男女共同参画に関する活動
5.防災・安全に関する活動	5.防災・安全に関する活動	2.産業に関する活動
6.健康に関する活動	11.まちづくりに関する参加	9.交流に関する活動
9.交流に関する活動		

問 6 今後 10 年間で優先的に取り組むべき分野（3 つまで○）



資料 5 中学生アンケート

(1) 実施概要

● 対象者	大鰐中学校に通う生徒全員（139 名）
● 実施時期	2021（令和 3）年 12 月
● 回収数（回収率）	134 票

表 設問構成

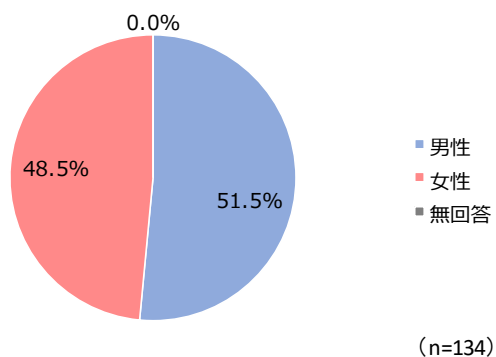
Ⅰ あなた自身について	
問 1	性別／学年
Ⅱ あなたと地域について	
問 2	放課後や休日の過ごし方
問 3	大鰐町にあったらいいと思うこと
Ⅲ まちづくりの取組について	
問 4	大鰐町の印象
問 5	居留意向
問 6	今後 10 年間で町が取り組むべきこと
問 7	住みやすい町にするために自分にできること

(2) 回答結果

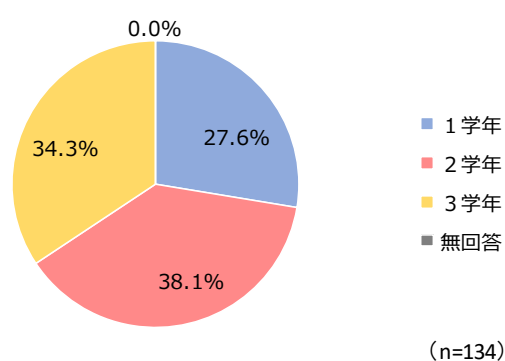
- 余暇の過ごし方で最も多いのは、放課後は「学校で友達と部活」、休日は「自宅でひとりでゲーム」である。
- 町の印象では 9 割以上が「好き」と回答し、将来の居留意向は「住み続けたい」が 5 割程度である。
- 町の好きなところは「自然資源が豊か」なところであり、きれいなところは「小・中学生の楽しめる場所がない」ところである。
- 今後、10 年間で優先して取り組むべきことは「まちづくり」である。

問 1 属性

1-1 性別

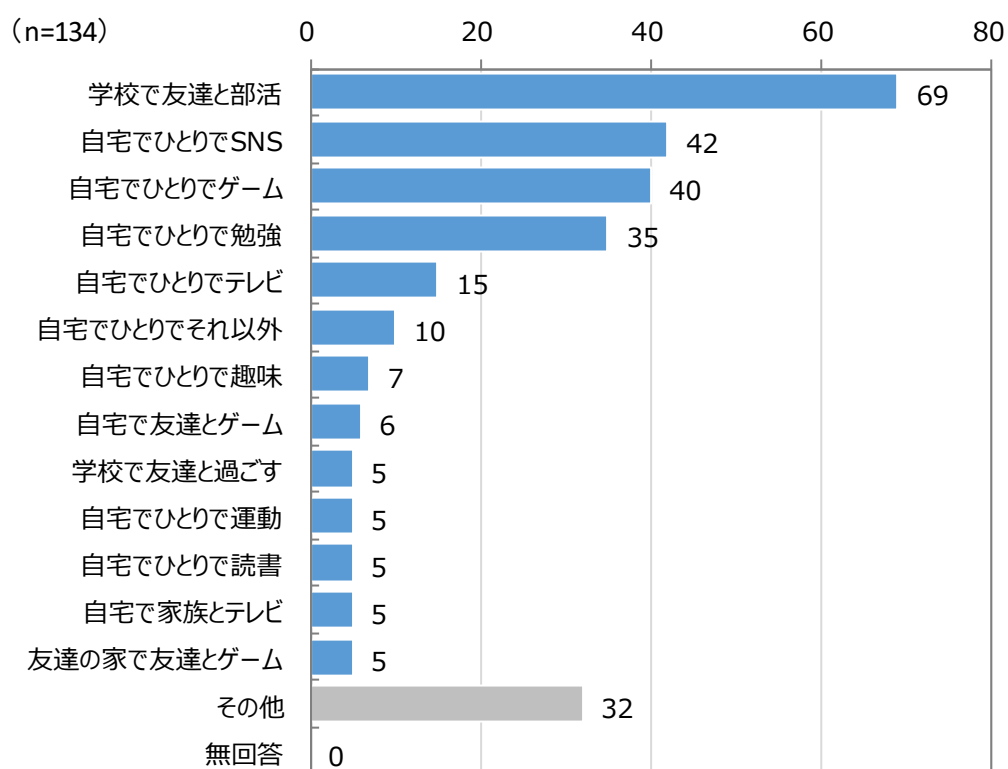


1-2 学年

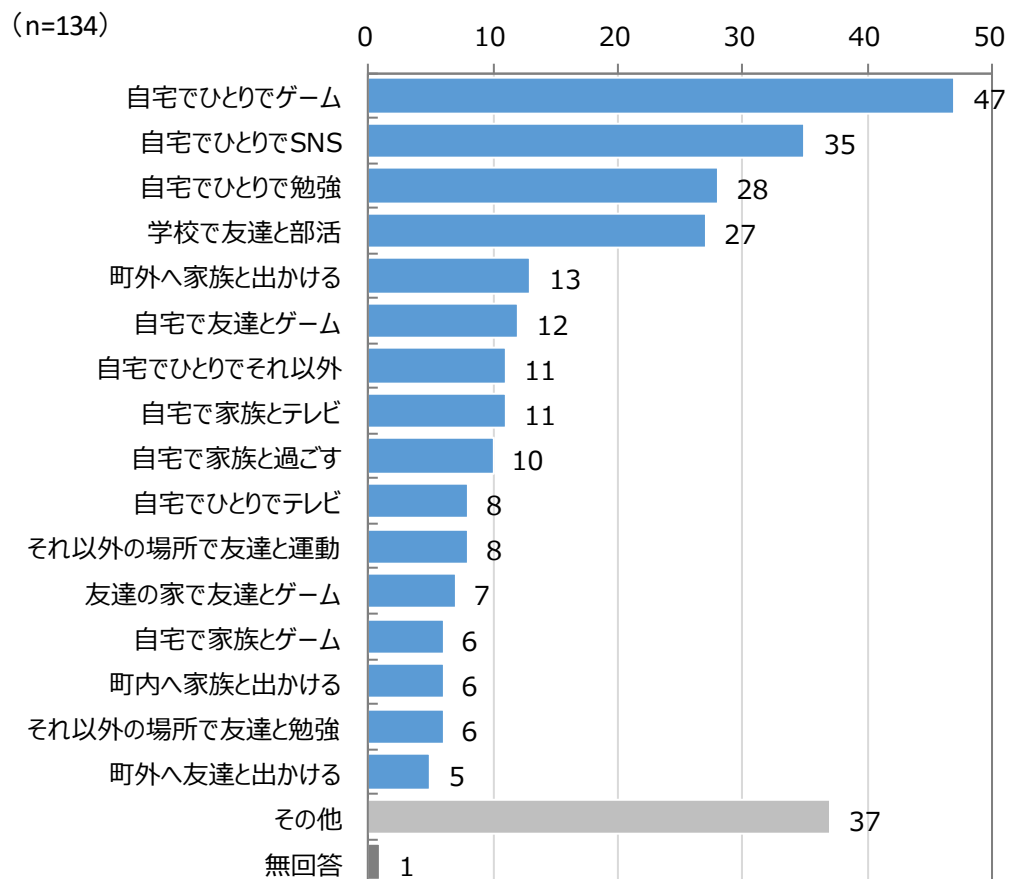


問 2 放課後や休日の過ごし方

①放課後



②休日



問3 大鰐町にあったらいいなと思うこと

- 記述は「特になし」等を除いて全 104 件
- 場所は「図書館」「ショッピングモール」「ゲームセンター」の要望が多い。
- 行為は「遊ぶ」「くつろぐ」「集まる」の要望が多い。
- 上記のほか、外灯の設置や安全に帰宅できること等安全に関する要望がある。

1 学年

性別	学年	問 3 あったらいいな、こういう風に過ごしたいなと思うこと
男	1 学年	特になし
男	1 学年	ゲームセンターで友達と遊んで過ごしたい。
男	1 学年	ゲームセンターで友達と遊びたい。
男	1 学年	特になし
男	1 学年	友達と遊べる施設
男	1 学年	あまりない
男	1 学年	本屋があったらいいな。
男	1 学年	ゲーセン
男	1 学年	パチンコがあるならゲームセンターがほしい。カフェやファミレスみたいな皆で集まれる所がほしい。
男	1 学年	休日の体育館開放 デパート
男	1 学年	誰でも自由に使う球場があったらいいなと思いました。理由は、練習したいからです。
男	1 学年	もっとコンビニが多くあたらいいなと思っている。
男	1 学年	あまりない
男	1 学年	近くに店が少ないため、店を増やしてほしい。遊べる場所を増やしてほしい。
男	1 学年	行きやすい所があたらいいなと思いました。
女	1 学年	私はいつもデマンドバスを利用しているのですが、学校の終わる時間とバスの時間が合う便がない時、1 時間くらい待たないといけないのもう少し時間が合うバスに乗れたら嬉しいと思います。
女	1 学年	大鰐にセブンイレブンをつくってほしい。
女	1 学年	ショッピングモール。服とか買える場所があるといいと思う。友達と遊べるから。遊園地。
女	1 学年	18 時まで部活をして帰る日は外は真っ暗で街灯も少ししかなく危険だと思うので街灯を増やしてほしい。
女	1 学年	もう少し遊べる施設などがあたら嬉しい。スポーツなど自由にできる施設があたらいい。
女	1 学年	弘前の方に行かなくても、図書館があたらいいなと思います。友達と勉強しようとなった時、大鰐にはそういう所がないので、勉強出来る所があってもいいのかなと思います。
女	1 学年	特になし
女	1 学年	休日は服屋にいたり書店に行ったりできるような、ヒロロみたいな所があたらいいなと思います。
女	1 学年	皆で触れ合う場所
女	1 学年	私は、交通手段がとても良い場所に交流しやすい所を作ればいいと思います。
女	1 学年	広場みたいな所、誰もいつでもいって遊べる所があるといいと思います。
女	1 学年	大鰐町にみんなが楽しめるデパートや遊べる所があれば良いと思います。楽しく外で体を動かせるような生活をしたいです。
女	1 学年	公園など建てる。イオンタウンでも、創れば良い。
女	1 学年	ゲームセンターやショッピングできる場所があればいいと思う。友達と気軽に遊べると思う。

2 学年

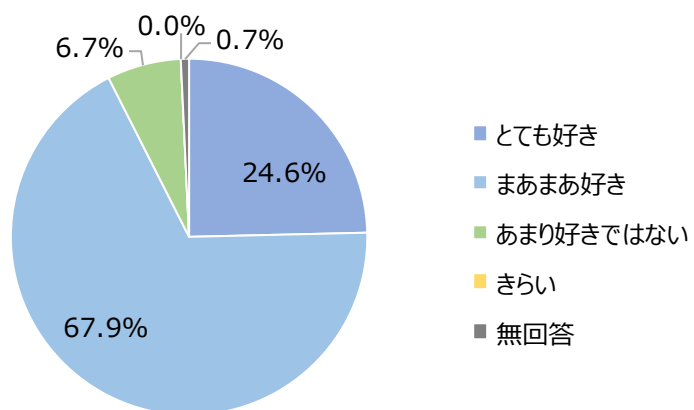
性別	学年	問 3 あったらいいな、こういう風に過ごしたいなと思うこと
男	2 学年	遊ぶ所
男	2 学年	ポケモンセンターがほしい。別の体育館がほしい。
男	2 学年	コンビニをふやしてほしい。全国規模の飲食店が欲しい。
男	2 学年	マック、ゲーセン、街灯
男	2 学年	何々あってほしいと提案しても、大鰐町は実行してくれないので何も思うことはナシ。
男	2 学年	コンビニがもっとほしい。
男	2 学年	大鰐町にローソンとファミマとかあったらいいと思う。
男	2 学年	バスケット部でバスケットをしたいのですが、大鰐には、平賀などと違い自由に体育館を使用できる所がないので、体育館を使用できる所がないので、体育館などを使うようになるといいと自分は思いました。
男	2 学年	本屋があるといい。（大きいの）コンビニも必要。
男	2 学年	ゲーセンとか本屋、広くて遊べる場所とか。
男	2 学年	電車があるから ゲーセンがあってほしい。
男	2 学年	ゲームをすぐには買えるお店が身近にあるといい。
男	2 学年	公園をもっと増やしてほしい。コンビニが欲しい。
男	2 学年	ゲームセンターがあればいい。
男	2 学年	本屋がほしい。わざわざ弘前に本を買いにいかなくてすむから。 ゲームセンター
男	2 学年	わりと大きなショッピングモール、出かけるとき弘前などに行くが、それが大鰐にあると町内で済ませられるし、様々な年代の人がくると思う。
男	2 学年	いろんな所に W I - F I つけてほしい。バスケットする場所唐●にも欲しい。←お願いします！！
男	2 学年	安全に帰宅したい。
男	2 学年	いろんなことができる体育館があったらいい。
男	2 学年	コンビニ、人、あかり
女	2 学年	コンビニ増やしてほしいです。
女	2 学年	テスト期間などに、気軽に行けるような、図書館的なスペースが欲しいです。一人ひとり個別の。
女	2 学年	できないのはわかっているけど、ショッピングモールとか、少し大きめの公園とかがあれば楽しそうだなと思いました。
女	2 学年	ショッピングモールや遊園地とか、夏でも大鰐で遊べるもの
女	2 学年	ヒロロやさくら野のようなデパートがほしい。弘前にいくのが遠い。
女	2 学年	弘前みたいに、さくら野やイトーヨーカドーなど少しでも楽しめる場所がほしい。
女	2 学年	休日とかは弘前に行くことが多くて、お金もかかるから、友達と弘前にいかなくても遊べるところがほしい。
女	2 学年	自動販売機
女	2 学年	夏もスキー場のリフトを動かして、何かしてほしい。
女	2 学年	大鰐町の道路にゴミが落ちてなければいいなと思います。きれいな街になってほしいなと思います。
女	2 学年	デパートとかあったらいいな。
女	2 学年	外に出ても行く場所がないと思って、家にこもりがちになるので、気軽に遊びに行ける店が増えたりして、町が栄えてほしいと思う。
女	2 学年	ないです。

性別	学年	問 3 あったらいいな、こういう風に過ごしたいなと思うこと
女	2 学年	のんびり過ごしたい。
女	2 学年	図書館があったらいいと思います。マンガや小説を読んだり、勉強したりしたいです。
女	2 学年	・遊べる場所が少ない。 ・本屋、図書館
女	2 学年	・室内で遊べる所 ・運動できる所 ・室内のテニスコート
女	2 学年	公園、図書館
女	2 学年	あったらいいものプリ機、ゲーセン
女	2 学年	小・中学生が楽しく遊べるように公園や建物など作って、もっと小学生との仲を深めたい。図書館を作って友達と勉強したりしたい。スキー場じゃなく、スケート場をつくって滑りたい。
女	2 学年	図書館があったらいい。美術館、博物館があったらいい。
女	2 学年	友達みんなと楽しく遊べる場所。
女	2 学年	遊具が多めな公園 デパート 100 均
女	2 学年	ヒロロとかヨーカドーほしい。でかい体育館。遊園地。図書館がほしい。運動場。遊ぶ場所。
女	2 学年	図書館（大きい）
女	2 学年	アニメイトやセブンイレブンがあればいいと思う。
女	2 学年	自由に運動や遊べる場所 気軽に行ける図書館
女	2 学年	図書館や学習スペース、ショッピングモールがあったらいいと思う。

3 学年

性別	学年	問 3 あったらいいな、こういう風に過ごしたいなと思うこと
男	3 学年	スキー場のナイター設備、拡大
男	3 学年	中学生や高校生でも利用できる勉強スペース
男	3 学年	少し大きい施設（放課後や休日に遊べるような）があればいいと思う。
男	3 学年	・大鰐町の真ん中に、テニスコートがあったらいいなあ～ ・雨や雪でも集まれる場所 ・本屋さん
男	3 学年	大鰐町にゲームセンターがあればいいと思いました。
男	3 学年	好きな時間にバドやスポーツができる体育館
男	3 学年	大鰐の道路を新しくして自転車や車に優しい町にしてほしい。
男	3 学年	スキーのナイター
男	3 学年	夜遅くまで遊んだときに外が暗いので街灯を増やしてほしい。ゲーセンなどがあれば子供が遊べるのでほしい。
男	3 学年	町をきれいにしたら良いと思う。
男	3 学年	・喫茶店やカフェなどくつろげる場所 ・ゲームセンター
男	3 学年	遊べる所
男	3 学年	自然の魅力を味わう為に、観光施設をもっとあったらいいなと思った。
男	3 学年	大きい体育館があったらいいな。
男	3 学年	街灯を増やしてほしい。
男	3 学年	町に大きなデパートがほしい。コンビニをもっと増やしてほしい。
男	3 学年	なし
男	3 学年	ゲオ、アニメイト
男	3 学年	図書館があったらいい
男	3 学年	今はコロナがあるけど、なくなったら、みんなでワイワイ集まることができるような場所。
男	3 学年	本屋があればいい。
男	3 学年	運動のできるところがもうちょっと多くあったらいいなと思う。
女	3 学年	勉強ができるスペースのある図書館
女	3 学年	水族館とか、動物園とか、大鰐で友達と遊べる空間、施設がほしい。
女	3 学年	カフェ
女	3 学年	自分の部屋で勉強が集中できないとき、自由に使う自習室があったらいいなと思います。
女	3 学年	大鰐町に、ショッピングモールがあったらいいな。
女	3 学年	長時間休める場所
女	3 学年	あったらいいもの、ショッピングモール、コンビニ（セブン）
女	3 学年	公園や広場、休憩所などで地域の人達と交流したい。
女	3 学年	ファミマ

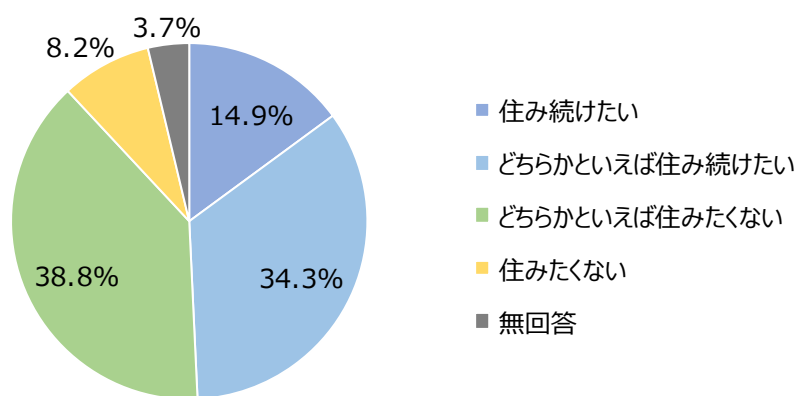
問 4 町への愛着



(n=134)

問 5 居留意向

①大人になっても住み続けたいか

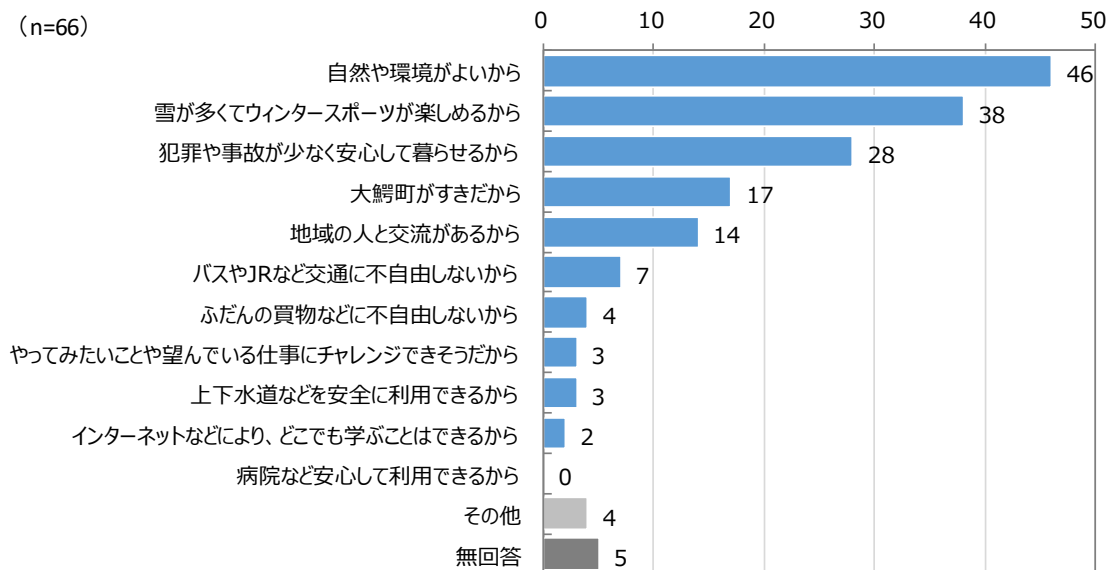


(n=134)

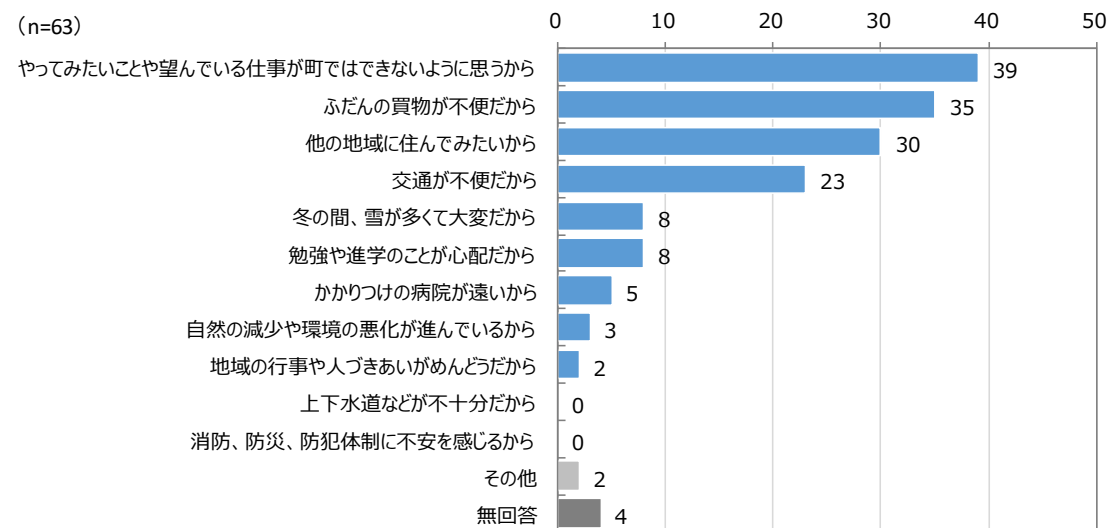
問 4×問 5

	とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	きらい	無回答	計
住み続けたい	15	5	0	0	0	20
どちらかといえば住み続けたい	13	32	1	0	0	46
どちらかといえば住みたくない	4	44	3	0	1	52
住みたくない	0	6	5	0	0	11
無回答	1	4	0	0	0	5
計	33	91	9	0	1	134

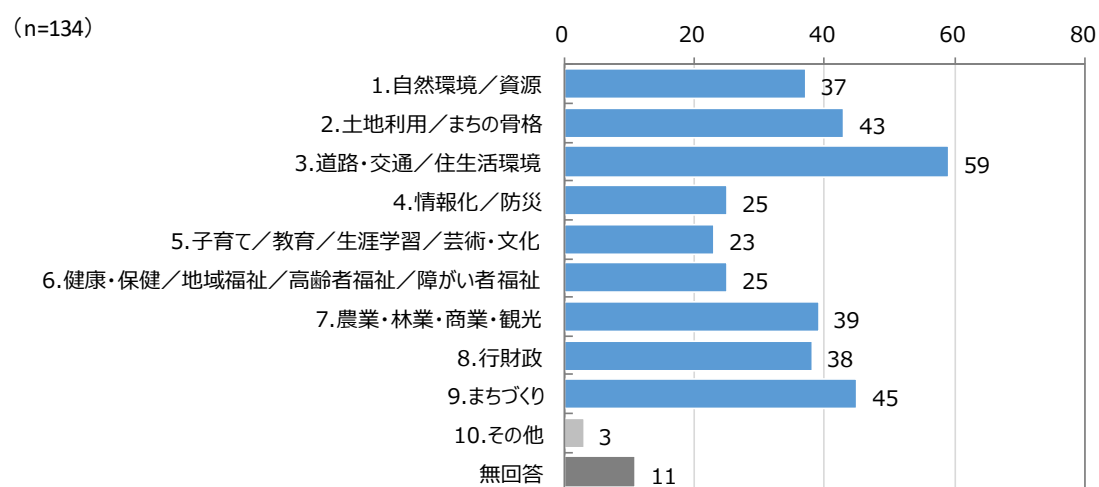
②住み続けたい理由（一人3つまで選択）



③住みたくない理由（一人3つまで選択）



問 6 今後 10 年間でまちが取り組むべきこと



問 7 住みやすいまちをつくるためにできること

1 学年

性別	学年	問 7 住みやすいまちをつくるためにできること
男	1 学年	分からない
男	1 学年	ゴミ片付けのボランティア
男	1 学年	ゴミ拾い
男	1 学年	ゴミ拾い
男	1 学年	大鰐町のいい所をいろんな人に伝える。
男	1 学年	あまりない
男	1 学年	特にない
男	1 学年	病気になるらないために野菜をたべたり、毎日 3 食食べてよく寝る。 ティッシュをあまり使わない。 ゴミをポイ捨てしない。
男	1 学年	明るい町にすれば住みやすくなると思います。
男	1 学年	ゴミ拾いなどのボランティア活動 大鰐町の魅力を PR する。
男	1 学年	家の雪かき
男	1 学年	少子高齢化が進んでいるからこそお年寄りがなかなかできないこと（雪かきなど） をやってあげたい。
男	1 学年	冬の雪かきボランティア
女	1 学年	ゴミ拾い、募金活動
女	1 学年	色々なボランティアなどに参加して大鰐がとて素晴らしい町だと思われたり思ったりできる活動がしたい。
女	1 学年	高齢者の方の手伝いができると思います。
女	1 学年	ゴミ拾い
女	1 学年	ゴミ拾いをする。
女	1 学年	もっと人の交流があり暮らしやすい所、場所です。
女	1 学年	ゴミ拾いやボランティアに積極的に参加する。
女	1 学年	広場などの遊び場のような所を作ったり、徹底的にゴミ拾いをする。
女	1 学年	・あいさつなどを呼びかける。 ・ゴミを見つけたら拾う。
女	1 学年	誰も住んでない家や空き家は壊してしまう。
女	1 学年	簡単なことではないが建物を建てたり、他県にどんどん大鰐町の魅力を伝える。

2 学年

性別	学年	問 7 住みやすいまちをつくるためにできること
男	2 学年	何かボランティアできるかも。
男	2 学年	いろいろやってみたい。
男	2 学年	募金
男	2 学年	ゴミをポイ捨てしない。
男	2 学年	夜など学校帰りに暗いから、街灯をつけてほしい。
男	2 学年	ゴミを拾うイベント。ゴミを捨てない。
男	2 学年	観光場所を増やしたり、ホテルとか宿とかを建て人口を増やす。
男	2 学年	ありません。
男	2 学年	ボランティア活動をする。
男	2 学年	雪かき
男	2 学年	大鰐町は冬に雪が多くて大変だから、おじいちゃん、おばあちゃんなどの雪かきをしてあげたい。
男	2 学年	働ける場所を増やす。もっと沢山の病気などに対応できる病院があると、赤ちゃんが産みやすかったりする。シンボルを増やす。
男	2 学年	役場の人達に訴えるだけ。
男	2 学年	交通をもう少し便利にした方がいいと思う。
男	2 学年	便利にする。
女	2 学年	ゴミを捨てない。
女	2 学年	町の人ともっと、触れ合える場を積極的に作るとよいと思う。
女	2 学年	近くに捨ててあるゴミを自分から拾う。
女	2 学年	誰にでもあいさつ
女	2 学年	冬以外はゴミ拾い、冬は雪かきなど。
女	2 学年	たまにゴミが落ちているから、拾う。
女	2 学年	大鰐町で、買い物をして、経済をまわす。
女	2 学年	ゴミ拾い
女	2 学年	ゴミ拾いボランティア
女	2 学年	ゴミが落ちてたりするのを見るから、大鰐町で拾えばいいと思う。あと医療をもうちょっと発展させればいいと思う。
女	2 学年	自然環境を維持する。
女	2 学年	若い人がずっと住めるようにデパートや買い物の場所を増やす。
女	2 学年	ポイ捨てした人を見たら必ず自分が拾って捨てるか捨てた相手に言う。ゴミ拾いボランティアなどやってみたい。
女	2 学年	ゴミ拾い
女	2 学年	ボランティア活動
女	2 学年	ゴミ拾い
女	2 学年	ボランティア
女	2 学年	ゴミ拾い、困っている人を助ける。あいさつする。
女	2 学年	ゴミ拾いなど
女	2 学年	ゴミ拾い

3 学年

性別	学年	問 7 住みやすいまちをつくるためにできること
男	3 学年	ボランティア参加
男	3 学年	進んでボランティアなどの活動をする。
男	3 学年	大鰐をおすすめする。
男	3 学年	大鰐への移住をすすめる。
男	3 学年	町をきれいにする。
男	3 学年	特になし
男	3 学年	いろんなボランティアに参加する。
男	3 学年	自然をもっと豊かにし、住みやすい町を作る為に自分がボランティア活動ができると思う。
男	3 学年	ゴミ片付けのボランティア
男	3 学年	ボランティア
男	3 学年	地域の人と仲良くする。
男	3 学年	ゴミ拾い
男	3 学年	ゴミ拾い
男	3 学年	ポイ捨てをしない。
男	3 学年	児童館のボランティア活動などに参加する。
男	3 学年	ボランティア
女	3 学年	中学生が大鰐町をアピールする。
女	3 学年	インターネットで PR する。
女	3 学年	りんご以外にも違う果物を作ったりすれば良いかな。
女	3 学年	頑張る。

資料 6 住民ワークショップ

第 1 回 みんなで語ろう！大鰐町の未来

町民ワークショップ ～住みたいのはどんなまち～

各班で話し合ったこと

A 班	
「いいな」「惜しいな」 盛り上がった話	大鰐は食べ物がおいしい。 電車はもっと本数があるといい。週末ぐらいいは午前様したい。
こうできたらいいな	足湯を使ったイベントなどを通して、にぎわいが生まれたらいい。
住みたいのは、 こんなまち イチオシの一句	「もやしとスキーだけじゃないぜ！ おおわには」 もやしとスキーのほかにも沢山ある魅力が他所に伝わるようなまち



B 班	
「いいな」「惜しいな」 盛り上がった話	スキー、スポーツ施設、温泉、旅館、魅力が多いまちだが、それぞれが連携していないことが惜しい。
こうできたらいいな	温泉をもっと活用できたらいい。地熱発電や雪の積もらない町営住宅など、利活用によって人が呼べるのではないかな。
住みたいのは、 こんなまち イチオシの一句	「みんながポカポカ大鰐町」 全員が連携し、仕事も豊かに心もお財布も潤い、温まるまち



C 班	
「いいな」「惜しいな」 盛り上がった話	とにかく温泉が安い、スキーで幼い頃から雪に親しんでいるところがいい。駅前にシャッター街が目立ち、なんとかできないか。
こうできたらいいな	空き店舗や空き家を活用したい、シャッターに絵を描いたり、子供の絵や作品を飾ったり場にするのもいいのではないかな。
住みたいのは、 こんなまち イチオシの一句	「いつまでも 愛され続ける わにのまち」 子供たちにも大鰐を愛する心が受け継がれていくまち



D 班	
「いいな」「惜しいな」 盛り上がった話	地震や事故が少なく安心して暮らせるところ。つつじが美しく、おいしいものに恵まれている。
こうできたらいいな	安心・安全、農産物をアピール。弘前の桜、大鰐のつつじというように周辺と連携して祭りを中心に地域を育ててはどうか。
住みたいのは、 こんなまち イチオシの一句	「食べて安全 住んで安心 大鰐町～一人ひとりがまちづくりの 主役です～」



E 班	
「いいな」「惜しいな」 盛り上がった話	町の歴史や文化に詳しい班員がいて、その話を聞きながら盛り上がった。
こうできたらいいな	大鰐の文化を伝える取組（2 小を博物館として活用するなど）ができたらいいな。
住みたいのは、 こんなまち イチオシの一句	「おおわにだ ちゃんとあるんだ 住む理由」 住む人が郷土について知り、誇りをもてるまち



F 班	
「いいな」「惜しいな」 盛り上がった話	自然の美しさについて「いいな」がたくさん出た。雲海も見られるらしい。特産品がおいしい。
こうできたらいいな	交通手段など生活面で不便があり、夜に食事できる店が開いているといいな。
住みたいのは、 こんなまち イチオシの一句	「星と夜景と雲海が近いまち」 今まで気づかれていなかった新たな自然の魅力もアピールするまち



第2回 みんなで語ろう！大鰐町の未来
町民ワークショップ 実現のために何をする？

各班で話し合ったこと

A 班	
テーマ	子育て情報共有
プラン名	おおわにT（ティー）プラン
コンセプト	漬物づくりを通して子供たちの食育を行い、食文化の継承と多世代の交流を促す。
プランの概要	Tは漬物（つけもの）のT。T1（ティーワン）グランプリを開催する。親子で野菜をつくり、自分たちがつくった野菜を使った漬物のナンバー1を競う。町内の農家等に野菜の提供や漬け方の指導等を依頼し、母親クラブやわにっこクラブを通じて参加を促す。 グランプリをとった漬物は商品化する。T1 グランプリに取り組む中で子育て世代の情報共有や大鰐の基幹産業である農業への理解、郷土の食文化の継承、多世代の交流など促進することができるのではないか。

B 班	
テーマ	まちについて語り合う場
プラン名	いつでもどこでもだれとでも
コンセプト	いつでも、どこでも、だれとでも、ざっくばらんに「町」について情報交換し対話できる場をつくる。
プランの概要	「語り合う場所」として鰐 come や食堂、使われていない温泉を活用してはどうかなど具体的な場所の検討から始まったが、「場所」を限定せず「いつでも、どこでも、だれとでも」ランダムに語り合う「機会」が重要ではないか。 少数のメンバーで、まちの空き地や駐車場など人目につく場所での「語り合う場」を設定することで自然発生的に周囲を巻き込んでいくことができる。とよい。 いずれ「語り合う場」が増えた際には、公民館等場所を固定していく。



C 班	
テーマ	りんご
プラン名	日本一の大鰐高原りんごの祭典
コンセプト	特色のあるイベントを通じて大鰐りんごを発信する。
プランの概要	日本一の大鰐高原りんごの祭典として、手始めに「りんご大食い大会」を企画する。大鰐のクロスカントリースキーコース全体を使い、「りんごの皮むき→りんごを食べる」を繰り返す。色々な種類のりんごを提供し、最後に何のりんごを食べたのか回答する。いずれ県大会、全国大会まで発展できるとよい。 実現のステップとして実行委員会のたちあげ後、農家の協力や、まちづくり補助金の活用、まちの広報との協力等を検討する。

D 班	
テーマ	ねぶた
プラン名	町民全員ねぶた職人
コンセプト	ねぶたを楽しむ、人を呼ぶ。my ねぶたをつくることを通じて祭りを盛り上げると同時に文化を継承する。
プランの概要	まずは自分たちが「ねぶた」を作ってみる。学校等とも協力し、子供たちや町民を巻き込みながら一人ひとりが「my ねぶた」をつくる。製作者が増えることにより「ねぶた」の数を確保し、鰐 come や廃校などを活用し展示場とする。 いずれライブビューイング等を通じて故郷を離れた人も楽しめるような仕掛けができるとよい。さらに展示を通じてグランプリ等を選定し指導者となってもらうなど「ねぶた」を創れる人を増やしていく展開が考えられる。



E 班	
テーマ	温泉
プラン名	湯の町大鰐復活！！～入湯税で報酬アップ～
コンセプト	温泉で町おこし
プランの概要	まずは効能や数など大鰐にある温泉の実態を調査し知ることから始める。調査に際し観光協会や町内の温泉などと協力体制を築く。調査結果に基づき温泉スタンプラリーを企画し、町民に温泉を周知しより親しんでもらう。 実績を積んだのちイベント企画会社を設立、スタンプラリーを通じて温泉セットや宿泊セットなど観光企画の充実を図る。温泉と観光を通じまちの魅力が広く伝わっていくとよい。

F 班	
テーマ	空き店舗
プラン名	☺ WANI(オーワニ)ハウス
コンセプト	空き店舗を利用して、大鰐に人が集まる場所を作る。
プランの概要	空き店舗の活用方法として「人が集まる場所」をつくれないうか考案した。始めに空き店舗情報を調査しリスト化する。同時に地域の「使いたい人」の情報も収集しリスト化し、貸してくれるオーナー探しを進める。場所の折り合いがつけば資金はクラウドファンディング等で調達し、建物をDIYで使いやすい形にする。ハンドメイド作品の個展等の利用から始め、徐々にコワーキングスペースとしての利用やテラスハウス的な展開ができるとよい。





第 6 次大鰐町振興計画

発行：令和 5 年 3 月

編集：大鰐町企画観光課

住所：青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字羽黒館 5 番地 3

電話：0172-48-2111（代表）

